月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.130



立ちはだかるエンペラー、
二人は過去を断ち切れるのか

創の軌跡 THE MISERABLE SINNERS

メインストーリーが続々更新！

『英雄伝説 暁の軌跡』

みんな集まれ！　合同忘年会！

も～っと集まれ！ ファルコム学園

レンとの再会
エステルの言葉は少女に届くのか

英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～

『軌跡』シリーズ
始まりの物語を振り返る

英雄伝説 空の軌跡

ファルコムニュース

『イース』最新作の名盤を徹底紹介！

『Ys IX SUPER ULTIMATE』レビュー



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

究極の上にも究極を。
さらなる高みを目指した新境地のロック&シンフォニー

『Ys IX SUPER ULTIMATE』レビュー

9月24日に発売となった新作アルバム『Ys IX SUPER ULTIMATE』は、もうお聴きいただけただろうか？ Nintendo Switch版『イースIX』発売を期に登場した《Super Ultimate》シリーズの第2弾だが、その方向性は約2年前にリリースされた『イースVIII』のものから大きく変化し、全体としてより骨太な、かつさらにファンの期待に応えるものとなった。その魅力の本質を深堀りしてみたい。 Text by hally(VORC)

「渾身」「究極」を見事に体現してみせたシリーズ第2弾

日本ファルコムの新機軸アレンジシリーズ《SUPER ULTIMATE》第2弾、『Ys IX SUPER ULTIMATE』が発売されてもう2ヶ月になる。すでにお聴きの読者諸氏も多いと思うが、なかには「第1弾の『Ys VIII SUPER ULTIMATE』がちょっと肌に合わなくて……」と見送った方もいらっしゃるかもしれない。もしあなたもそうだとしたら「それは大変もったいない！」と、まずはお伝えしたい。このアルバムはむしろそういう方にこそお勧めできる内容であり、さまざまな意味で前作とは別物になっているのである。

《SUPER ULTIMATE》というシリーズ名には「渾身・究極のスーパーフルアレンジ」という意味が込められている。究極の上にも究極を、という高い志がひしひし伝わってくるが、リスナーが評価の指針とするのはそこだけでなく、アレンジの方向性でもある。シリーズ第1弾はヴォーカルとインストが半々で、なおかつ音楽スタイルもイージーリスニングからダンスミュージックまで多彩という、いわば「なんでもあり」の方向性が示されていた。その点で今回の『Ys IX SUPER ULTIMATE』は対極にある。楽曲はインスト（多くは生演奏）のみとなり、作風もクラシカル〜ロック系で統一された。日本ファルコムファンにとってはまさに鉄板ともいえる方向性が、くっきり提示されたのである。

ヴォーカル曲がないため、前作でヴォーカルアレンジを受け持った真我光生氏は今回参加しておらず、インストアレンジ担当だった神藤由東大氏が全曲にわたって辣腕を振るう。いまや日本ファルコムの社外アレンジャーとしては現役最古参のベテランといえる神藤氏。そのキャリアについてはいまさら説明するまでもないかもしれないが、『イースVI』（2003）以降のほとんどのファルコム作品に何らかの形で関わり、とりわけシンフォニックなアレンジで高評価を獲得してきた氏の持ち味が、本盤ではいかんなく発揮されている。冒頭の「INVITATION TO THE CRIMSON NIGHT」を少し聴くだけでも、そのことはお分かりいただけるだろう。ゲームオーバー時などに何度も聴くことになるあの印象的なフレーズが、ハリウッドスコア的な重厚さで再構成され、そこに情感たっぷりに歌い上げるギターメロが追い打ちをかける。このストーリー性豊かなアレンジは、やはり鮮やかな手際によって壮大なオーケストラに生まれ変わった2曲目「WELCOME TO CHAOS」と並び、神藤氏の面目躍如ともいうべき出来である。

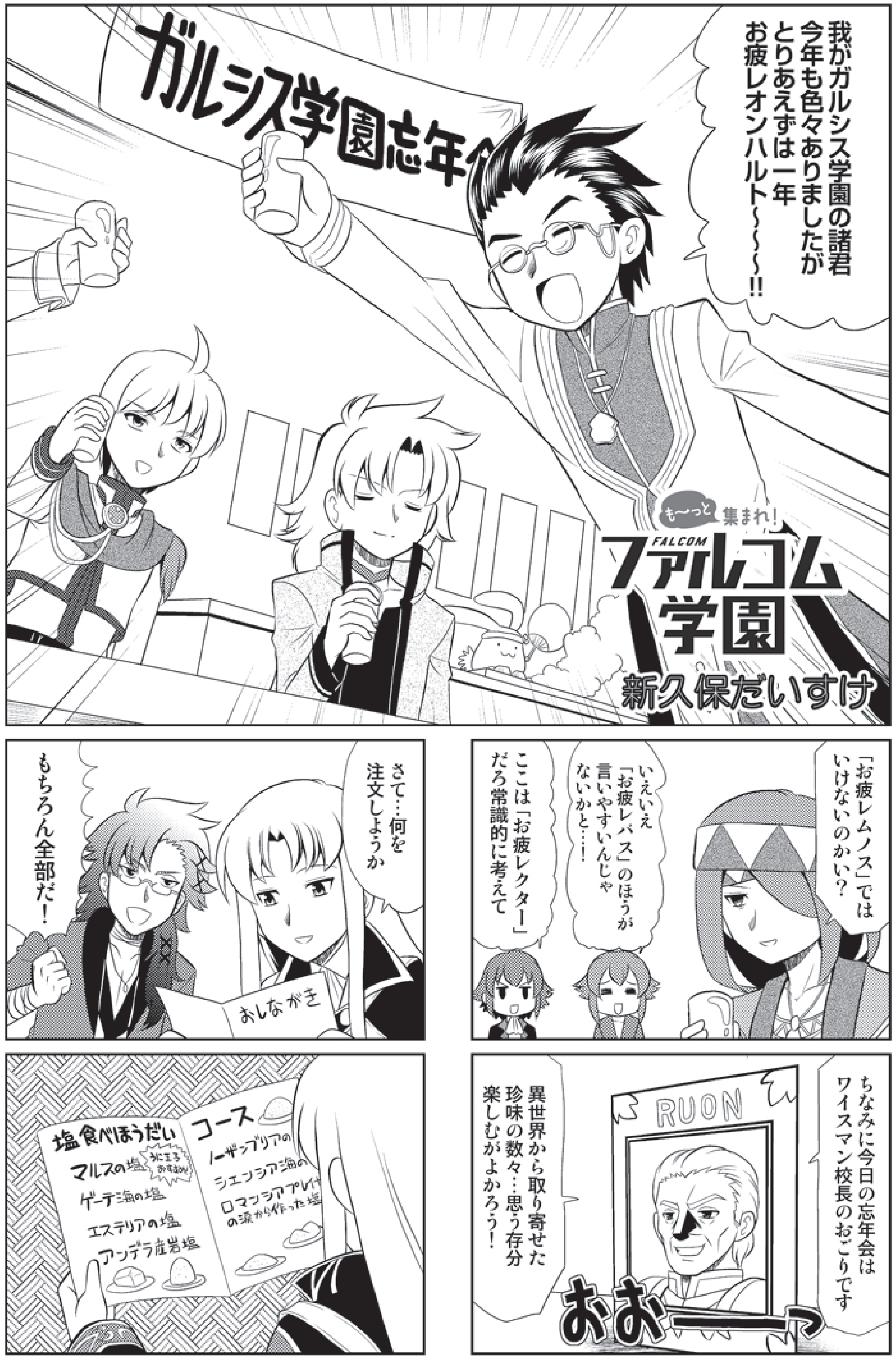
3曲目以降は原曲のイメージに沿った、あるいはイメージを実直に膨らませたアレンジが中心となる。ここからは原曲重視の方々にも存分にお楽しみいただけることだろう。総じて元がロック系の楽曲はよりライブ感の迸るダイナミックな艶めきのあるサウンドに、そして元がアコースティック系の楽曲はより洗練されたシンフォニックなサウンドになり、それぞれに力強さと格調高さをバランスよく同居させている。

面白いのは原曲路線のアレンジであっても、フレーズの扱い方が意外と原曲とは異なっていたりするところだ。大胆に演奏スタイルを変えているところも少なからずあったりするのだが、そこは原曲でも腕を奮っているプレイヤー陣ということで、安心して身を委ねることができる。この点で大きな聴きどころとなっているのは、長野昭子氏のヴァイオリンと寺前甲氏のギターである。両者それぞれに、ときに原曲と著しく弾き方を変えながら、フレーズの魅力を一段瑞々しく引き出していて、これが今回のアレンジにはドンピシャのハマり具合となっている。神藤氏自身も「ギターとヴァイオリンの祭典」と評するこのアルバム、その聴き応えに関しては折り紙付きである。



■商品情報
『Ys IX SUPER ULTIMATE』
好評発売中
●価格（税抜）
【CD盤】2,800円
【DL版】［アルバム］2,222円（税抜）／［単曲］231円（税抜）
【ハイレゾ音源版】［アルバム］2,777円（税抜）／［単曲］324円（税抜）
※CD盤は、音楽CDフォーマットに合わせてCD化した商品となります。

★今年も一年ありがとうございました! もう1号あるけど!★





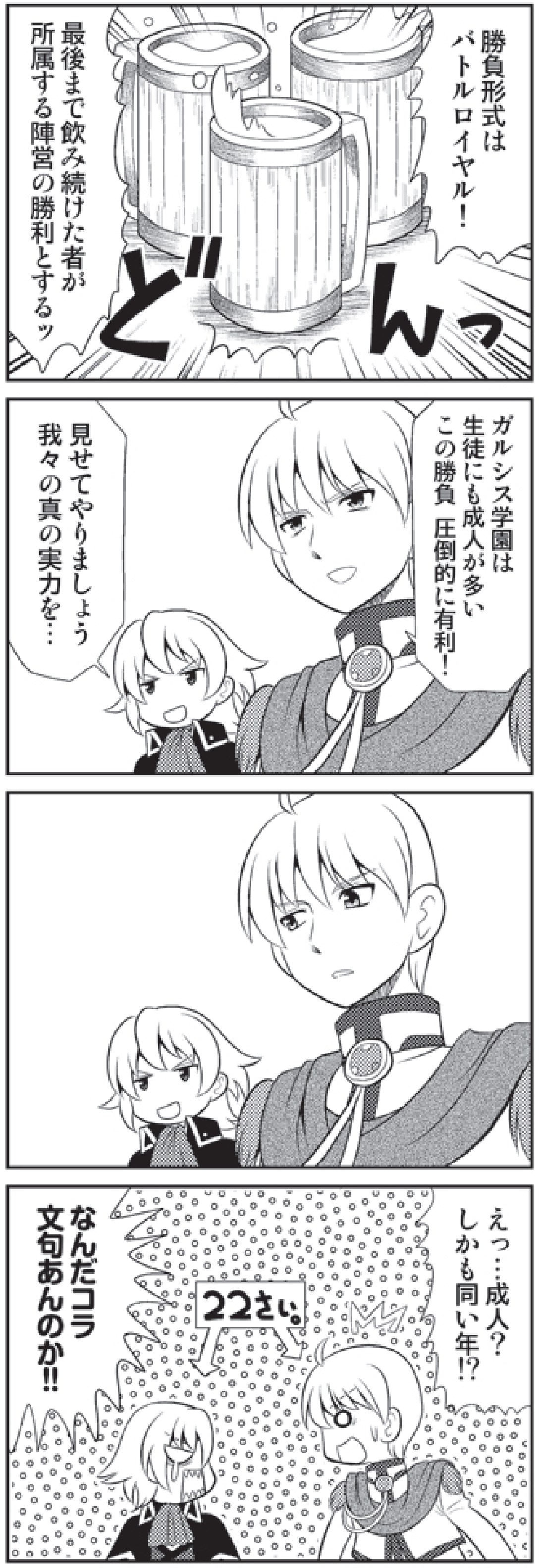
戦士のプライド



ときめきのミハイル



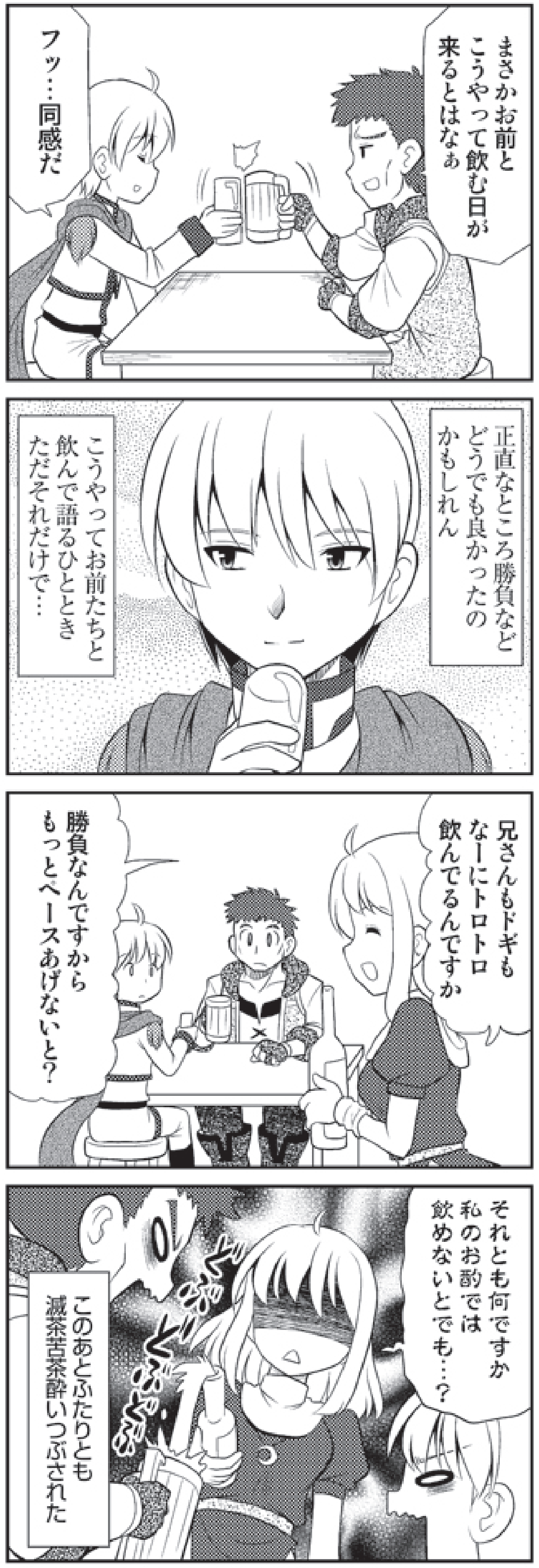
成人集まれ!ガルシス学園



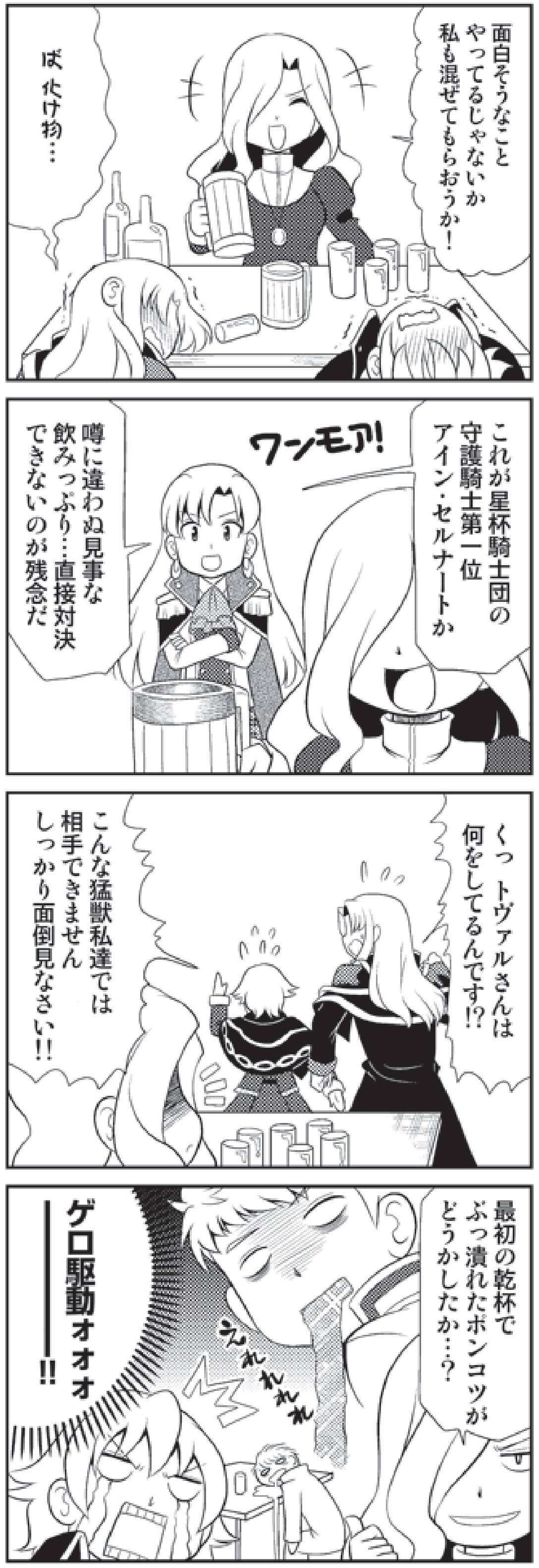
異世界の酒



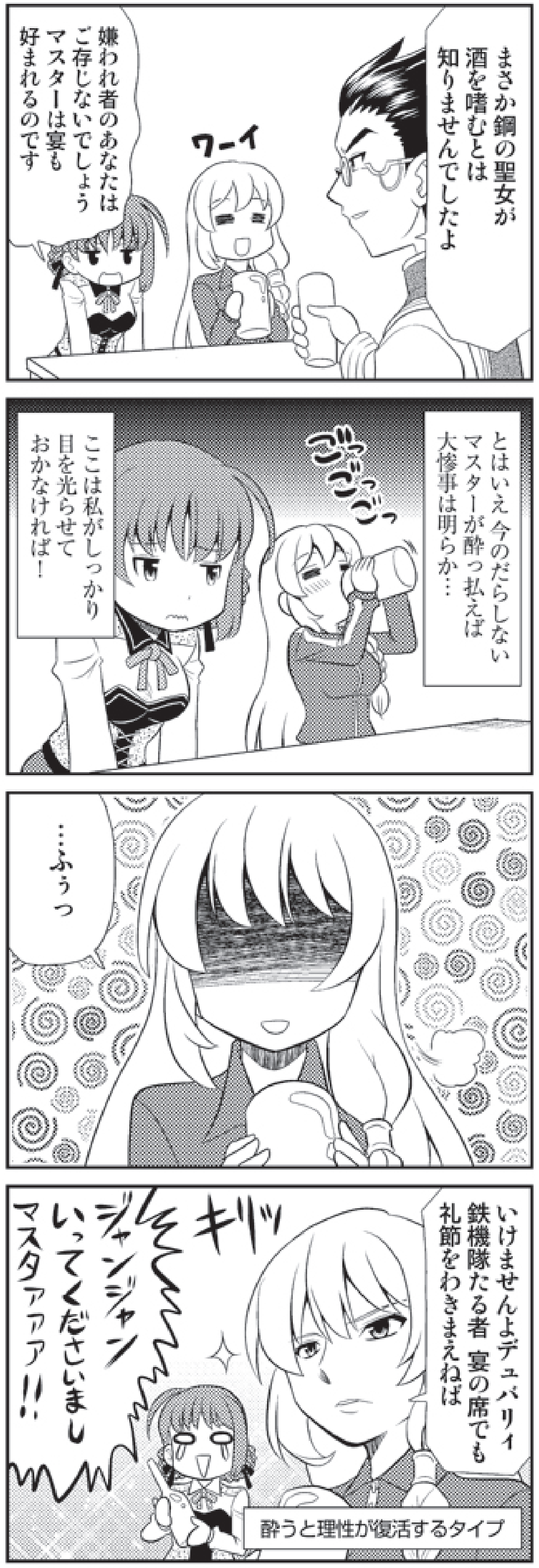
夢のひととき



零駆動、また死す



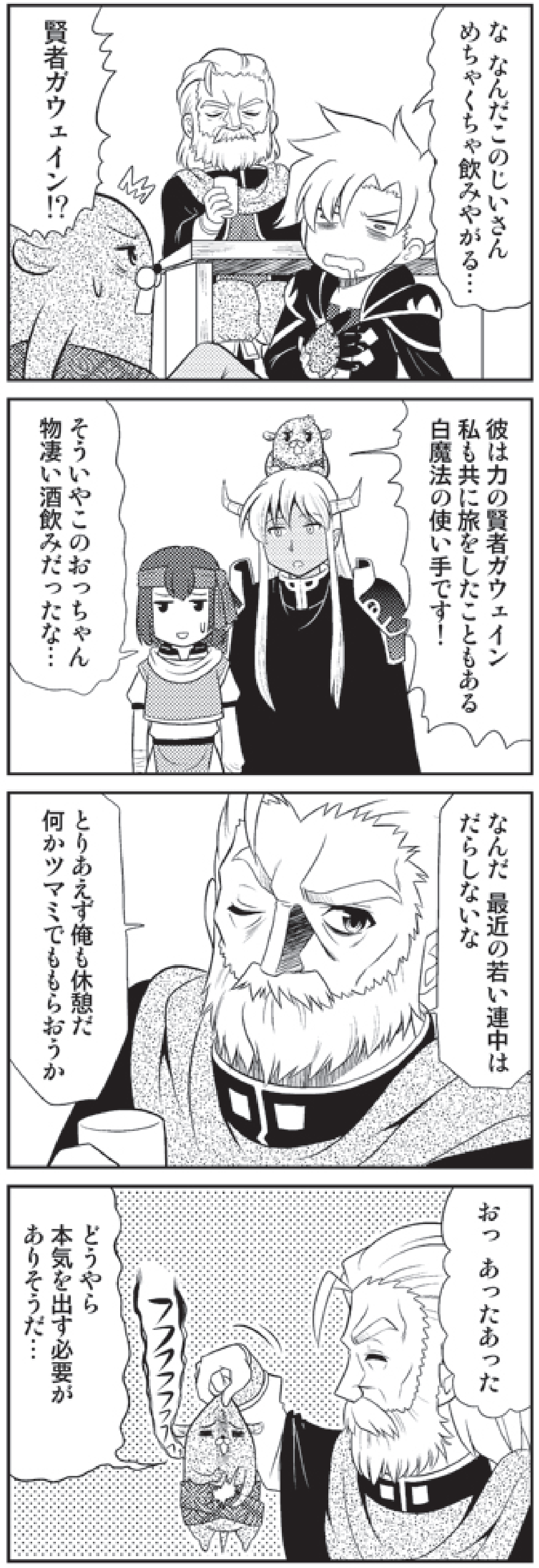
酔っぱらいマスター



気に入ったやつ



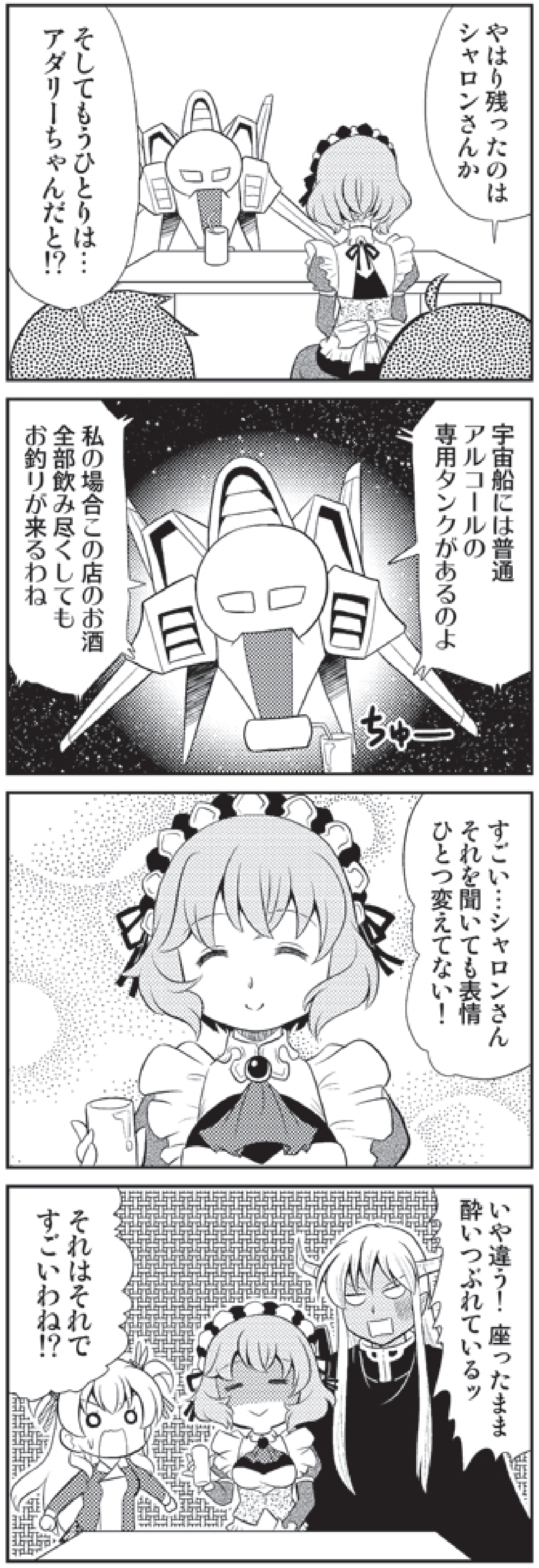
賢者とツマミ



仮面飲み



メイドのプライド



頑張った料理





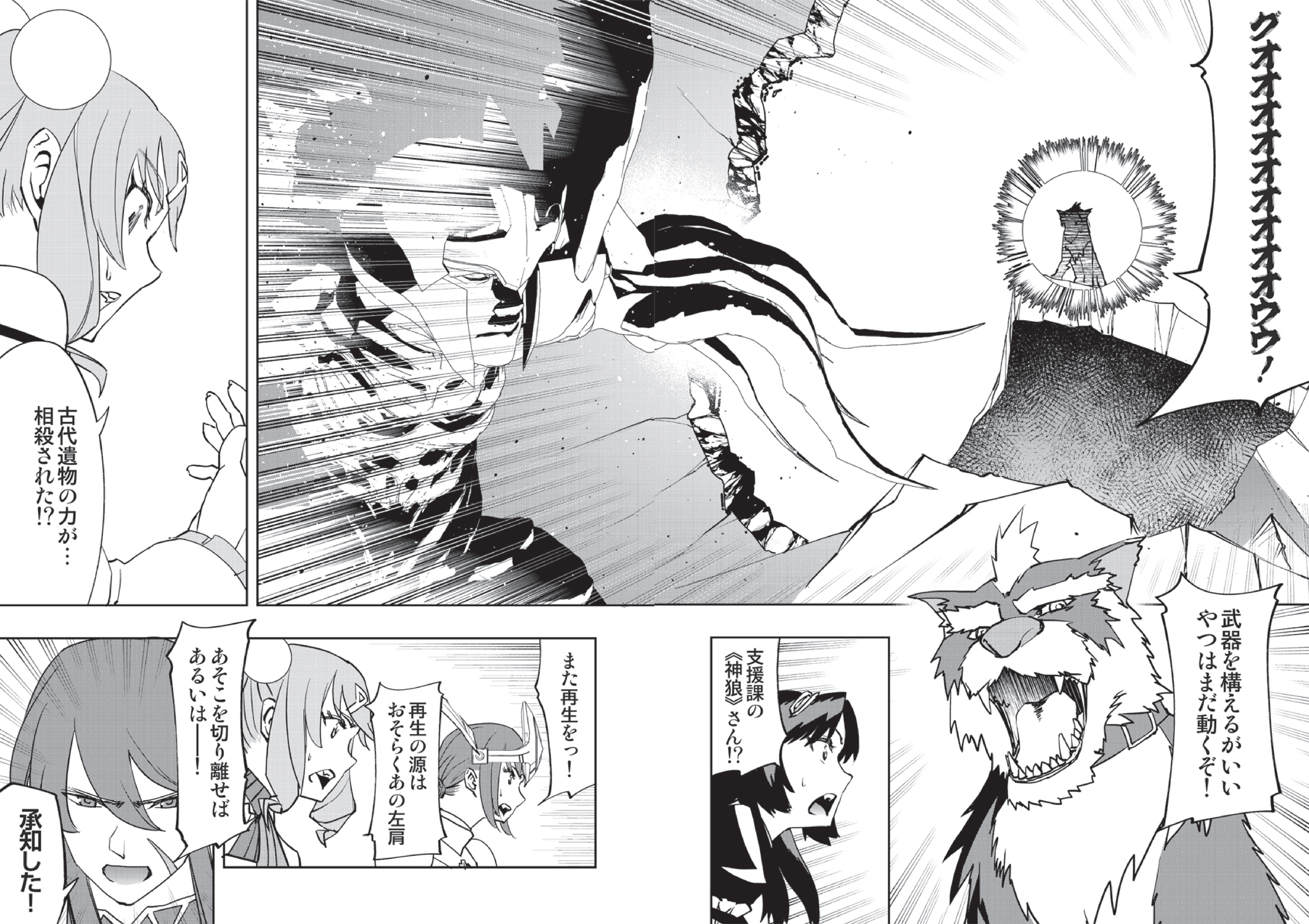
FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切りコミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジーがついに登場！ 新旧ファンも納得のラインナップで贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！ カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
ふぁるこむコミックざんまい
価格：本体920円+税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp

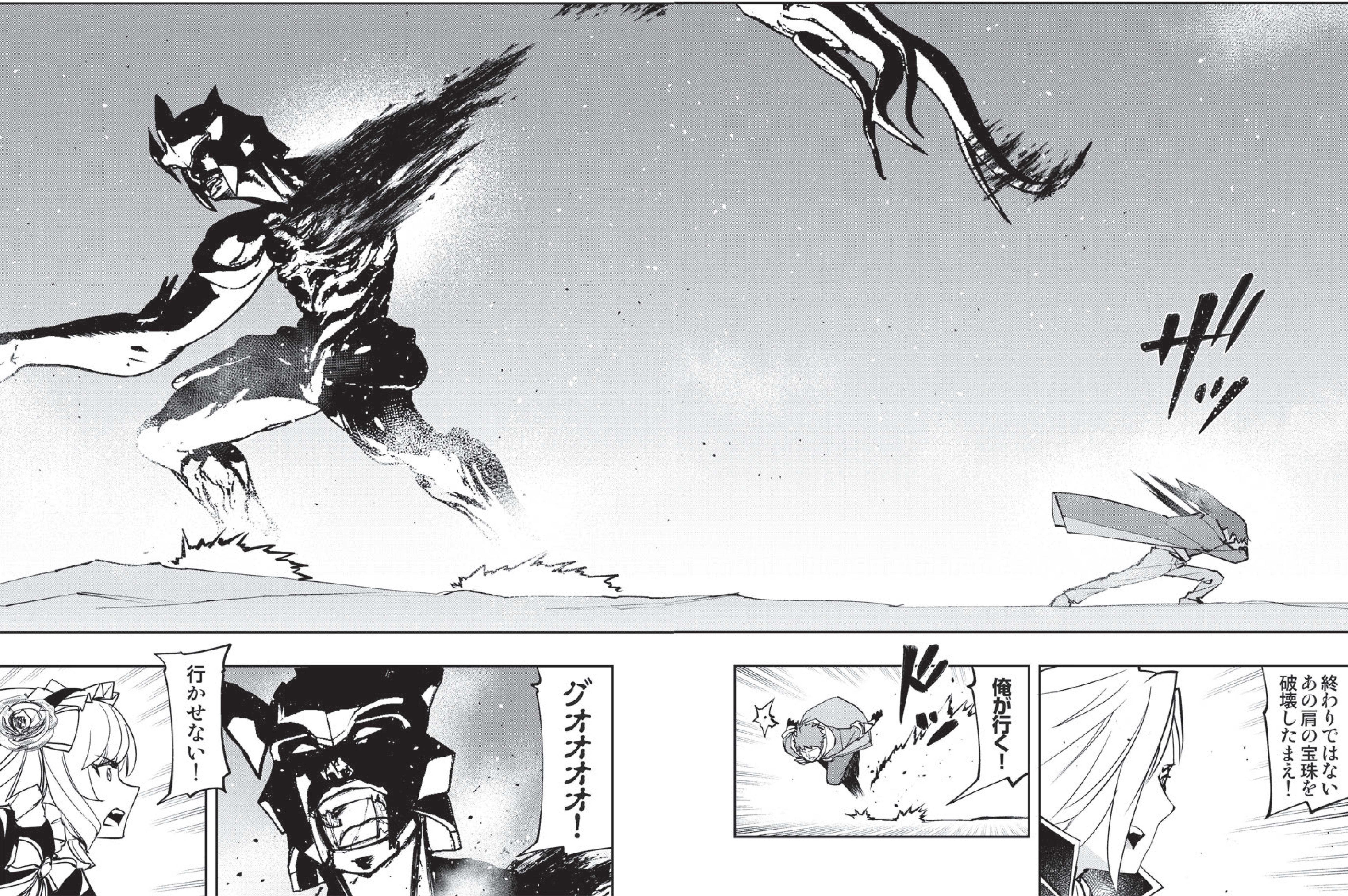


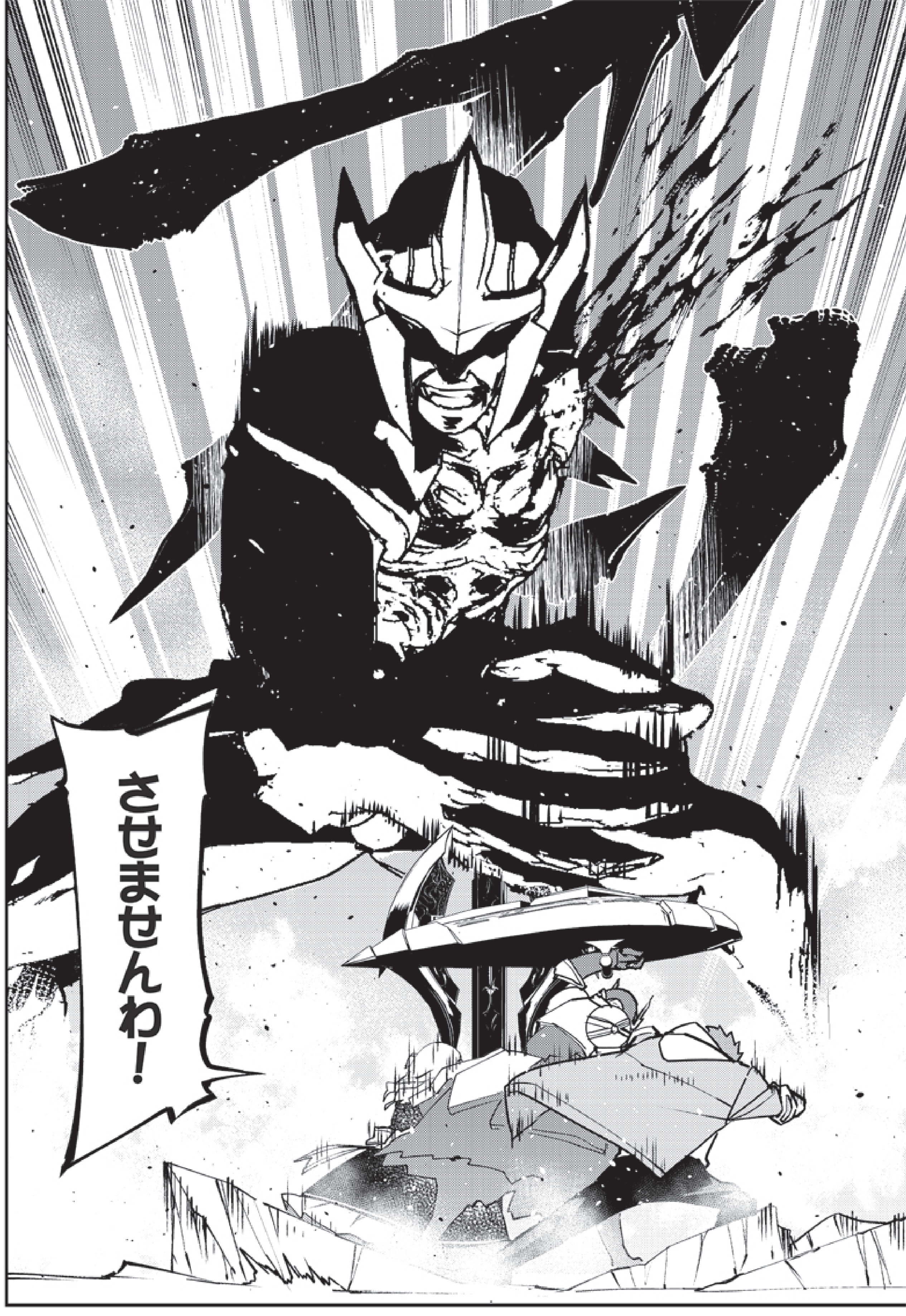
穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も〜っと集まれ!
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円+税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ フィールドワイ公式HPはこちら www.field-y.co.jp
発売：メディアパル ファルコムブックス公式HPはこちら www.field-y.co.jp/falcombooks


おい！あいつ損壊した部分が再構成しているぞ！
不死身ですの!?
THE LEGEND OF HEROES
創の軌跡
【はじまりのきせき】
THE MISERABLE SINNERS
漫画　墨天業
原作　日本ファルコム


くっ
それよりこのままでは建物自体がもたないわ！
つまり？
崩落する
ドドッ
ドッ


グオオオオオオオオオオウウ！
古代遺物の力が…相殺された⁉
武器を構えるがいいやつはまだ動くぞ！
支援課の《神狼》さん⁉
また再生をっ！
再生の源はおそらくあの左肩
あそこを切り離せばあるいは――！
承知した！

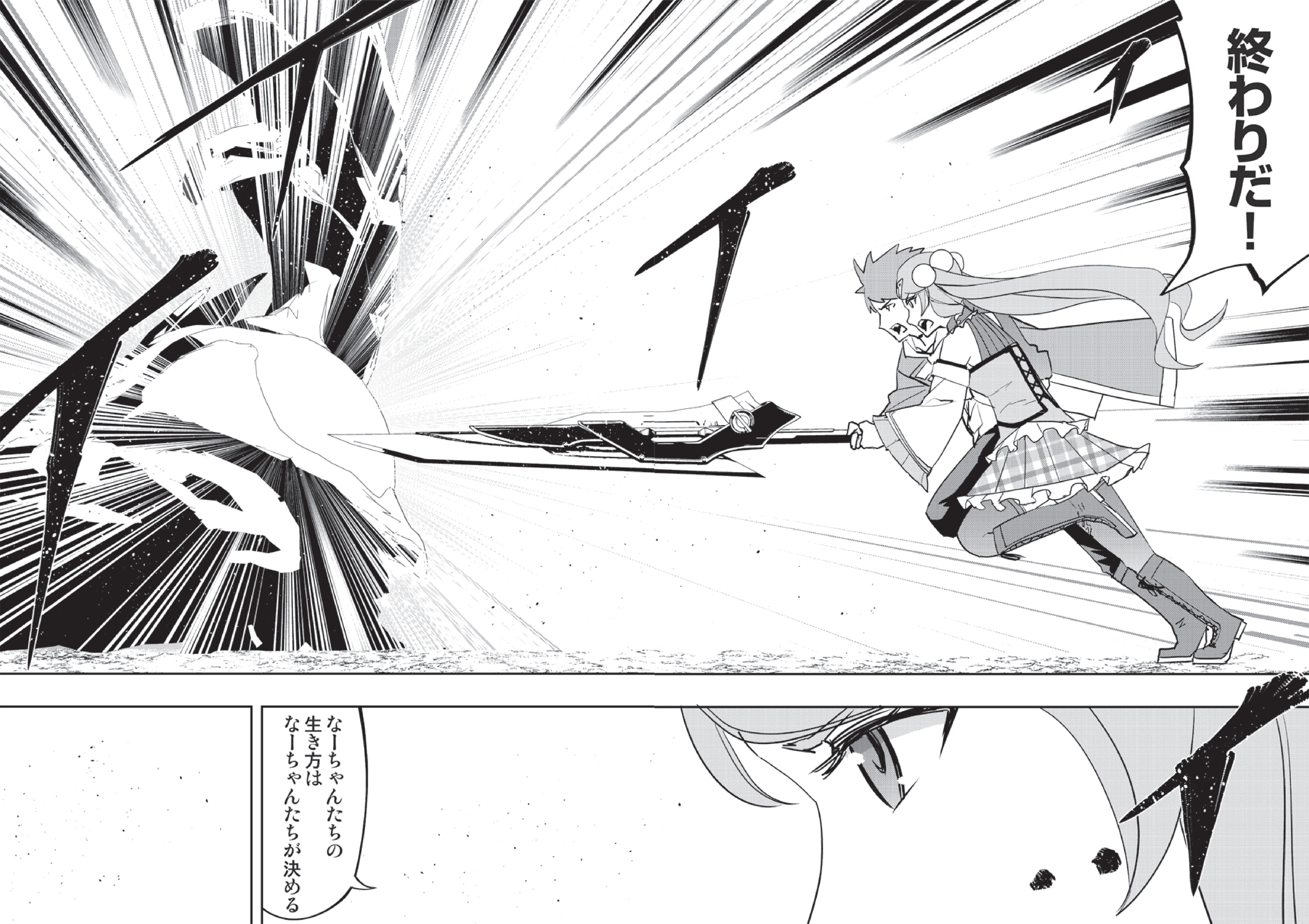

ザッ
終わりではない
あの肩の宝珠を
破壊したまえ!
ドッ
俺が行く!
グオオオオオオ!
行かせない!


させませんわ！


たぶんコアを貫かないと破壊できない！
ちょっと待って位置は——
バッ
時間がないお前も来いっ！

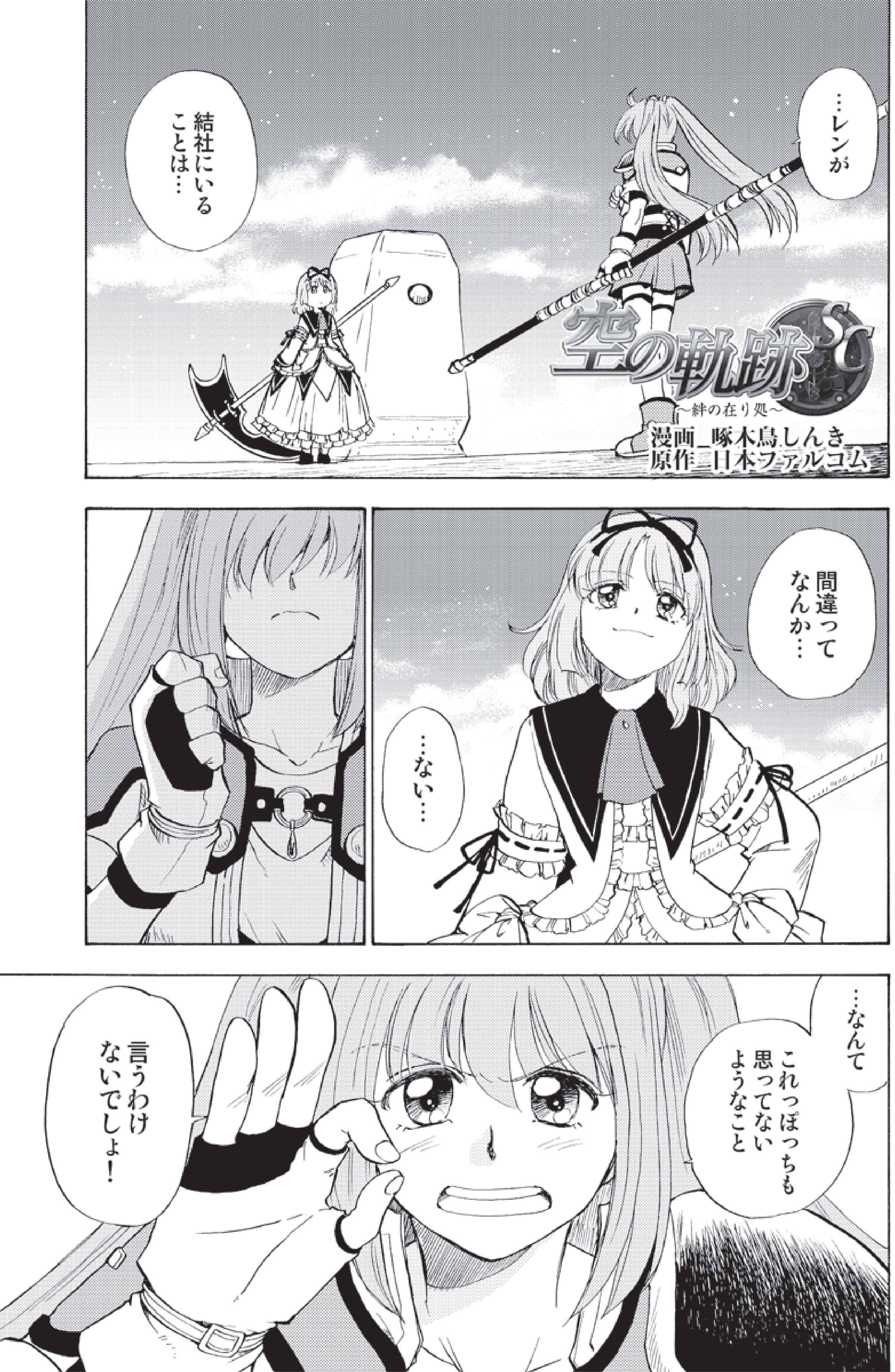

ドッ
こっちはレンたちが食い止めるわ！
ドバッ
君たちの因縁だ
君たちの手で
決着をつけるがいい！


ナーディア！スウィン！
やっちゃえええええ——!!
これで

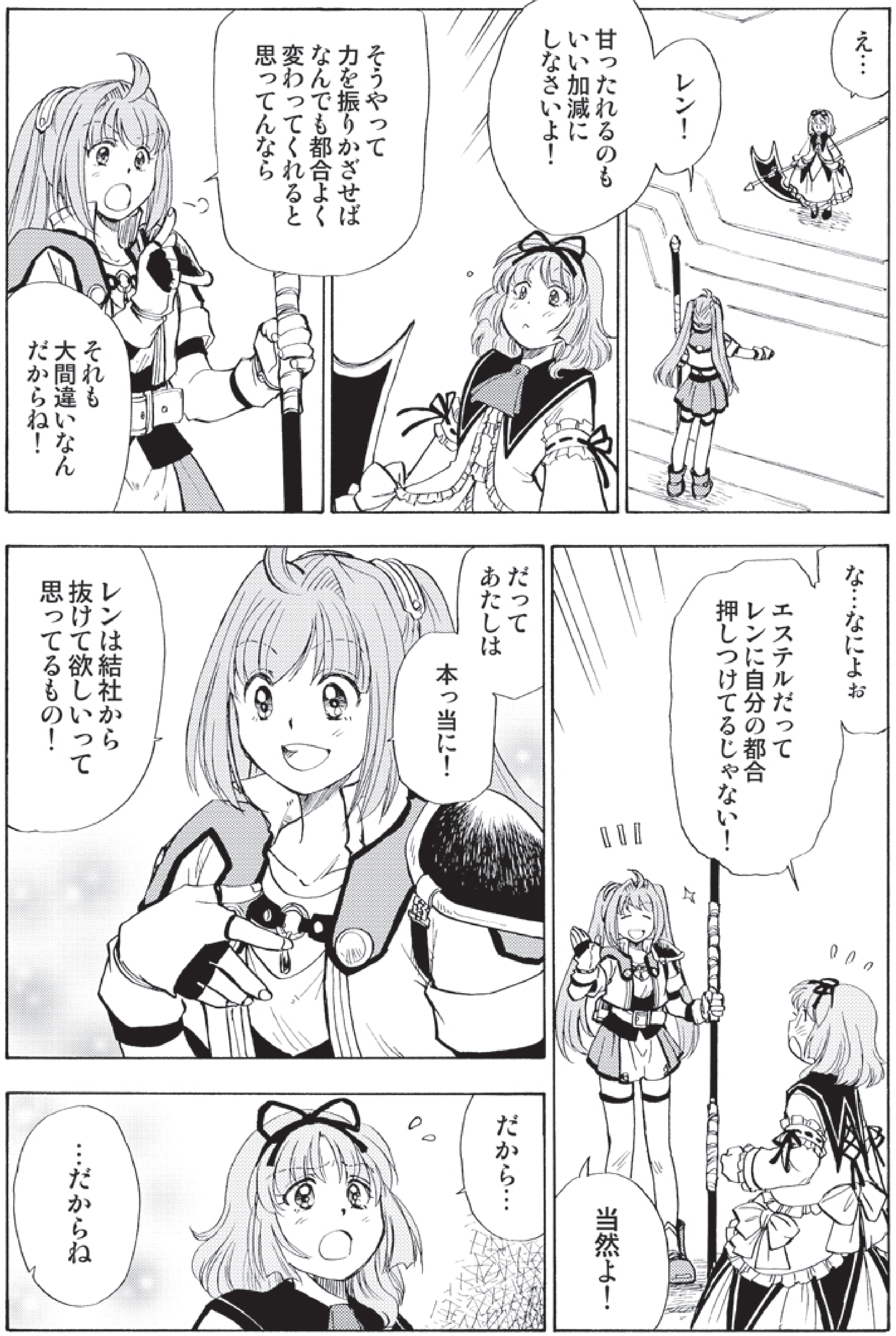

終わりだ！
なーちゃんたちの
生き方は
なーちゃんたちが決める

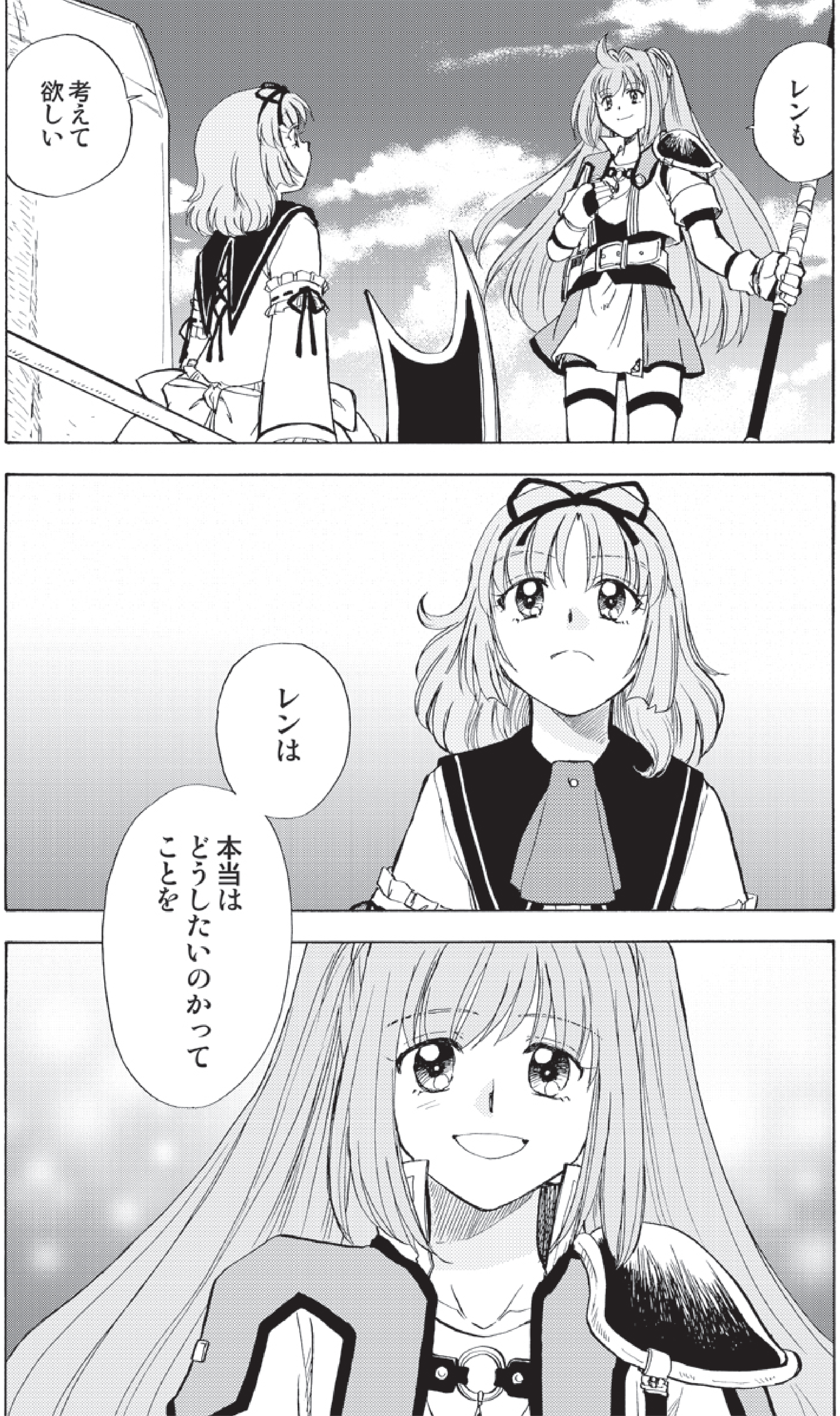

英雄伝説
閃の軌跡06
原作／日本ファルコム
脚本／恵村まお　漫画／さがら梨々
A5判　160P　定価：本体991円+税
ISBN 978-4-8021-3123-0
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©SAGARA RIRI 2018
好評発売中!!
エレボニア帝国に吹き荒れる陰謀の嵐！
時代が選ぶのは果たして誰か!?
そして友という絆に背を向け、
両雄相まみえる！
激動のクライマックス！
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら➔www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら➔www.field-y.co.jp/falcombooks

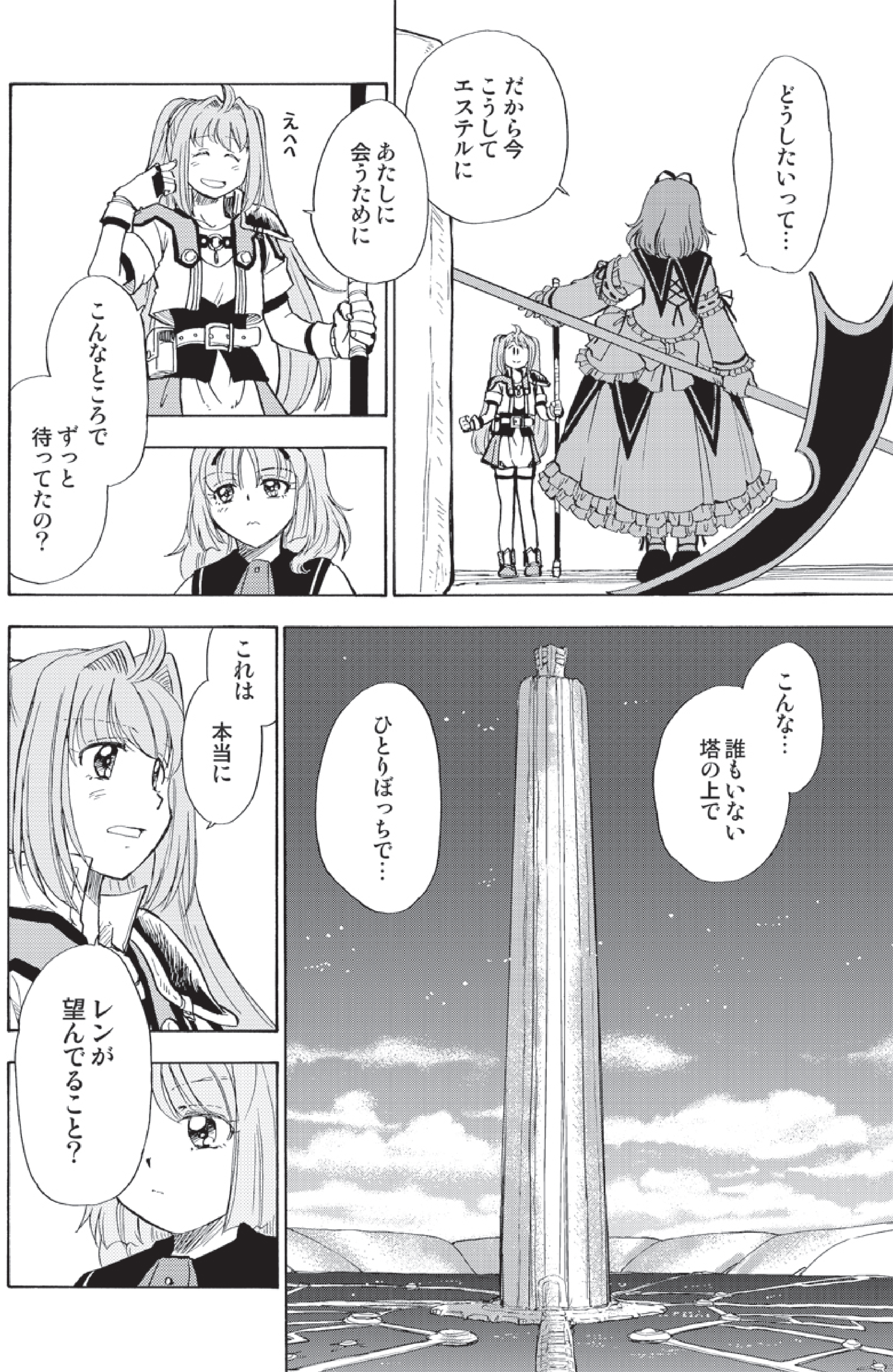

亡霊はさっさと
あの世に行きな
Fortsetzung folgt

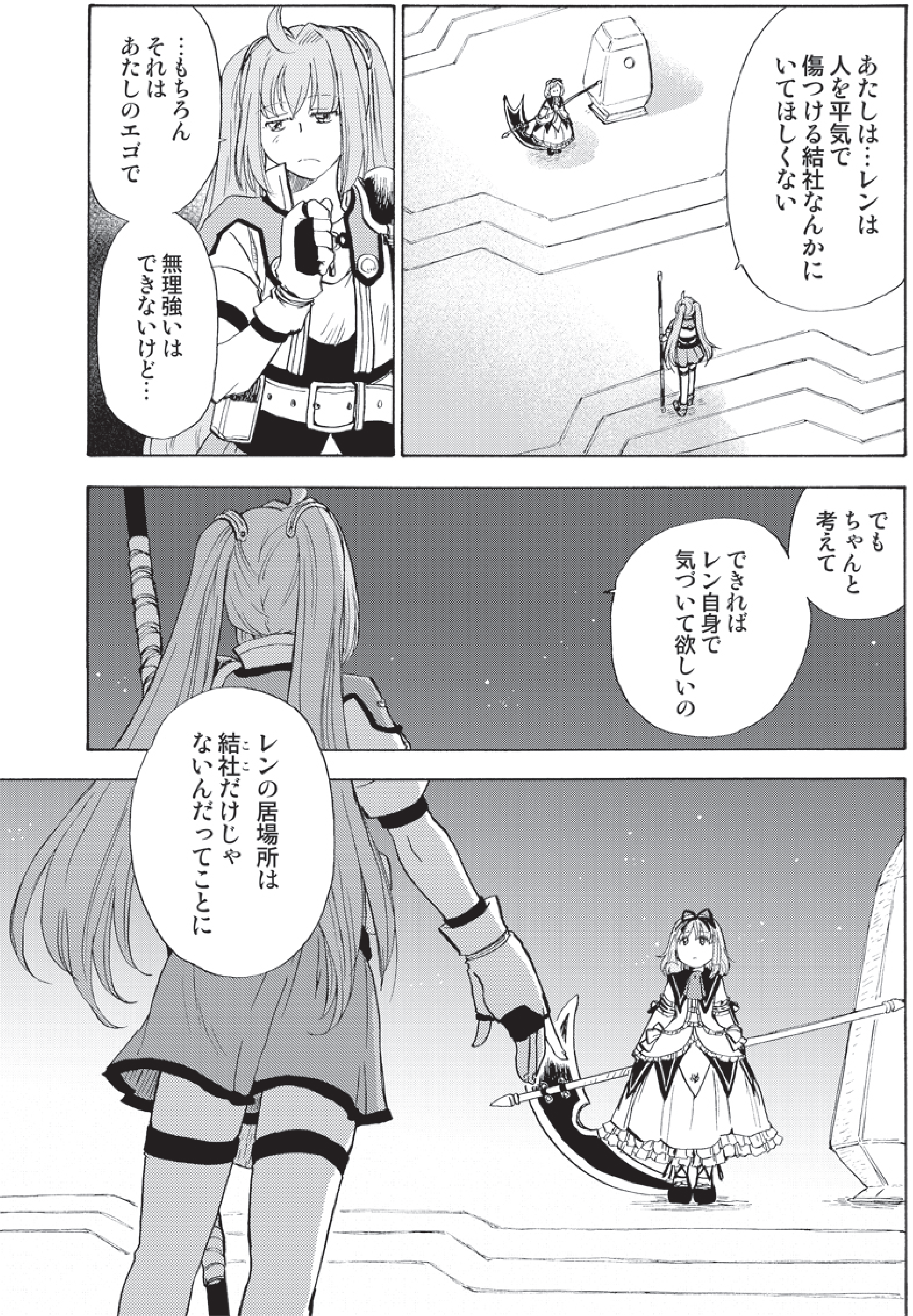

…レンが
結社にいることは…
空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画_啄木鳥しんき
原作_日本ファルコム
間違ってなんか…
…ない…
…なんて
これっぽっちも思ってないようなこと
言うわけないでしょ！

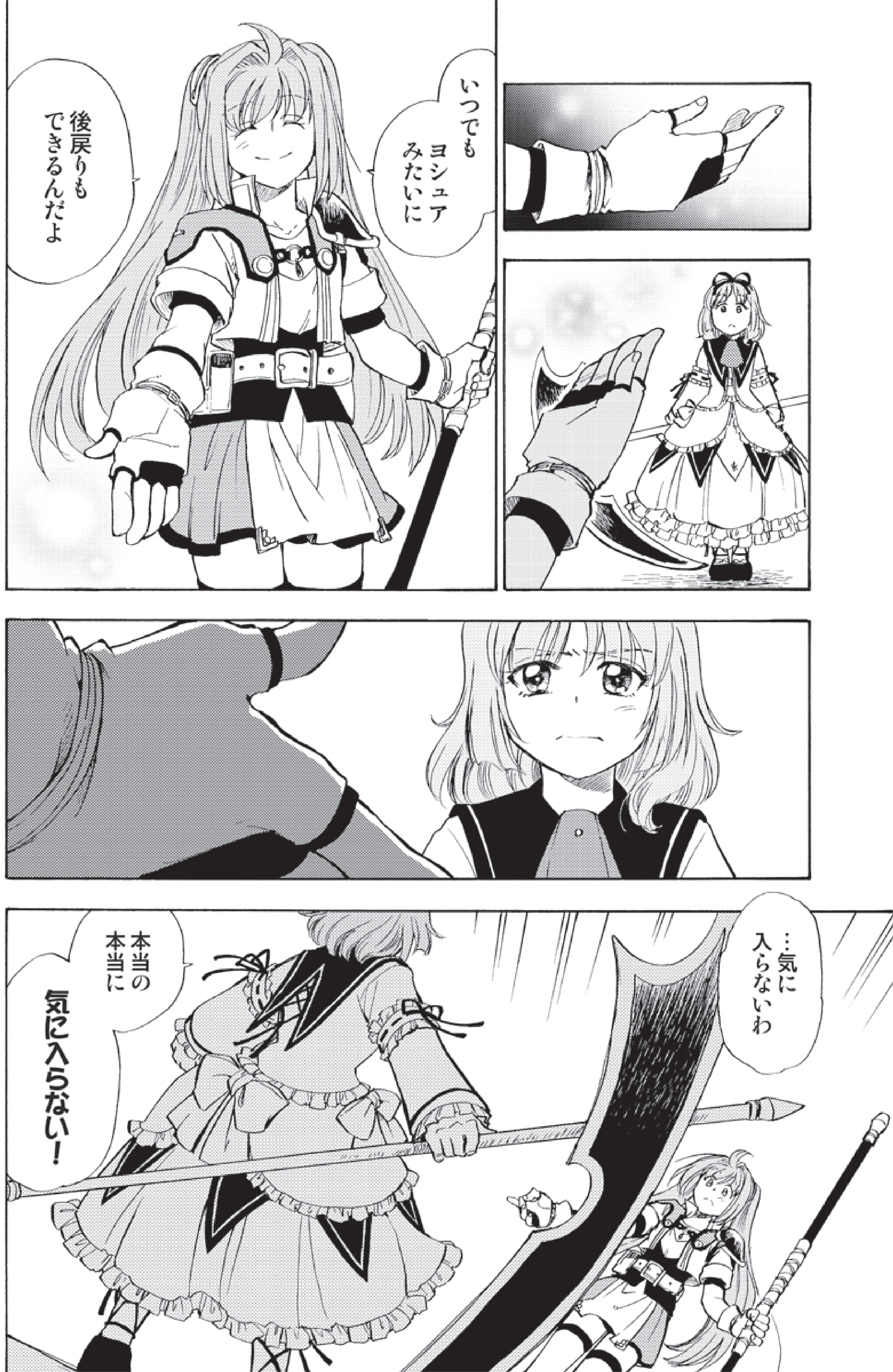

『英雄伝説 閃の軌跡』のアリサたちが魔法少女に!? 脚本家・山下憲一（TV アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』）と漫画家・さがら梨々（コミック『閃の軌跡』）の強力タッグが贈るシナリオブックが登場！　平穏な日常に突如現れた怪物。その時、アリサのキーホルダーが不思議な光に包まれて……!?
あなたにお届け！
愛と希望の流れ星！
魔法少女
まじかる★アリサ
決定稿
著：山下憲一
イラスト：さがら梨々
原作：日本ファルコム
好評発売中！
判型：A5正寸／ページ数：160／定価：1,300円（税別）／ISBN978-4-8021-3131-5
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©KENICHI YAMASHITA,RIRI SAGARA 2018 ©2018 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks


え…
レン！
甘ったれるのもいい加減になさいよ！
そうやって力を振りかざせばなんでも都合よく変わってくれると思ってんなら
それも大間違いなんだからね！
な…なによぉ
エステルだってレンに自分の都合押しつけてるじゃない！
当然よ！
だってあたしは
本っ当に！
レンは結社から抜けて欲しいって思ってるもの！
だから…
…だからね

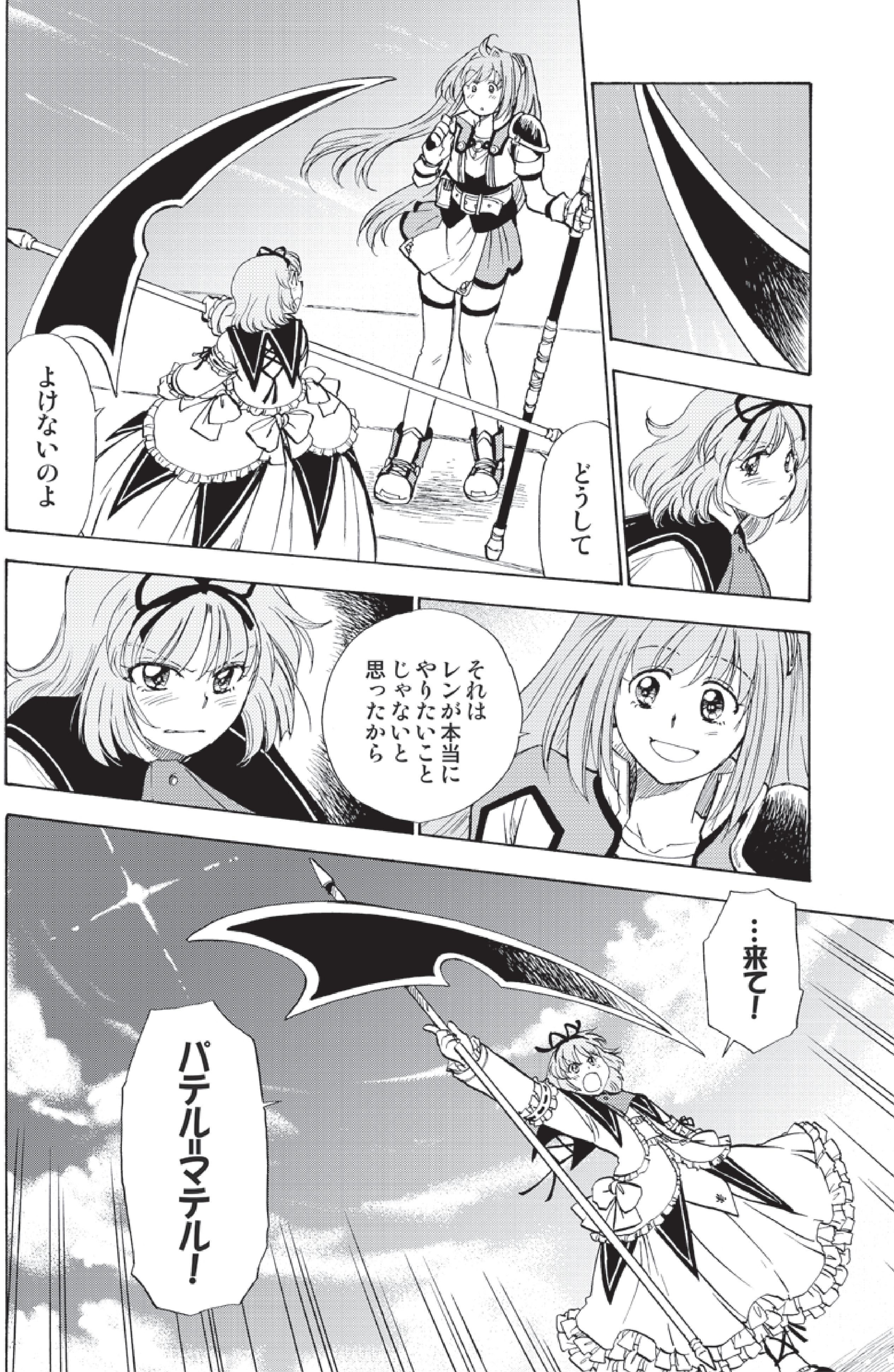

レンも
考えて欲しい
レンは
本当はどうしたいのかってことを

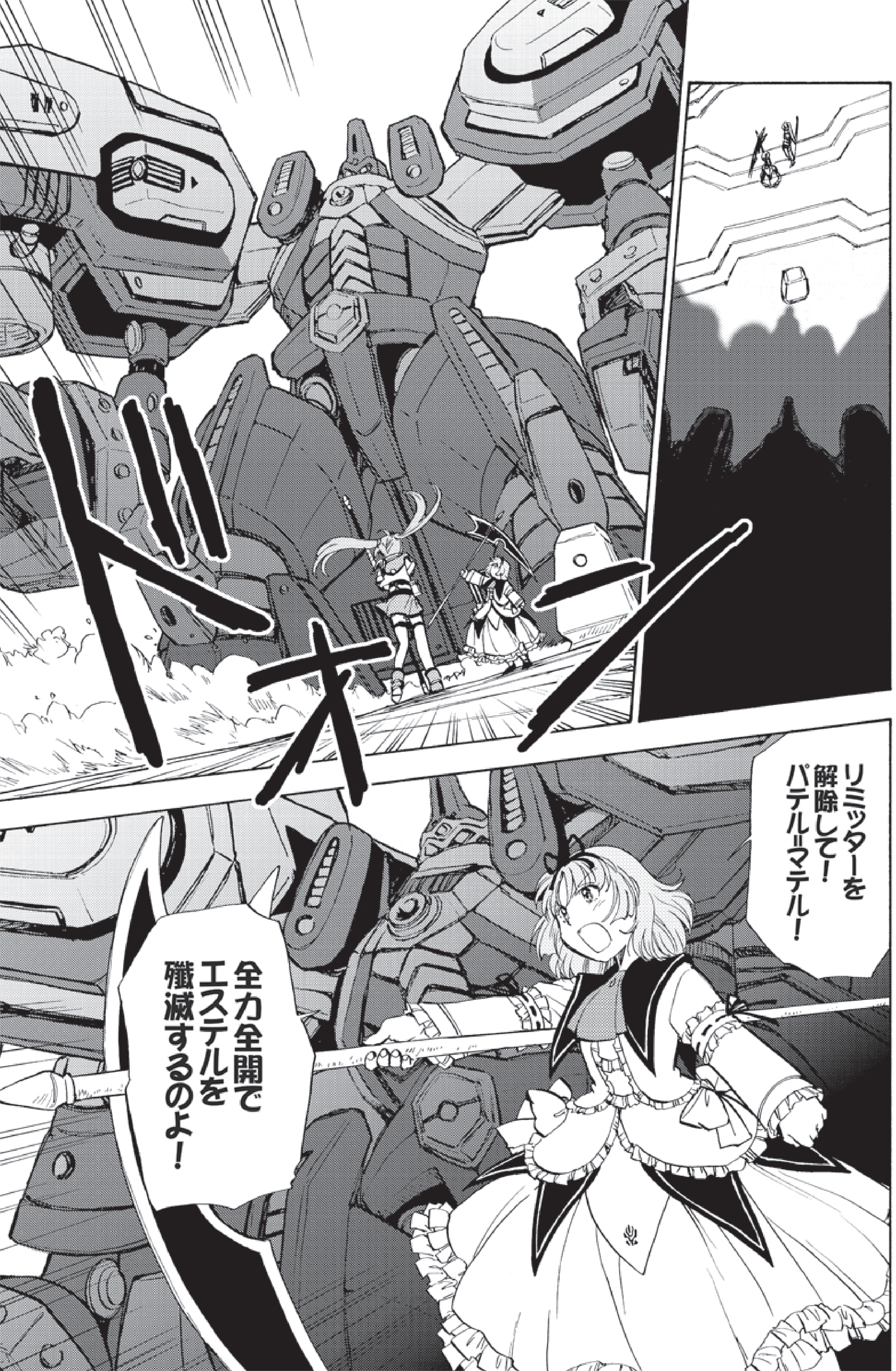

どうしたいって…
だから今 こうして エステルに
あたしに 会うために
えへへ
こんなところで ずっと 待ってたの？
こんな… 誰もいない 塔の上で
ひとりぼっちで…
これは 本当に
レンが 望んでること？

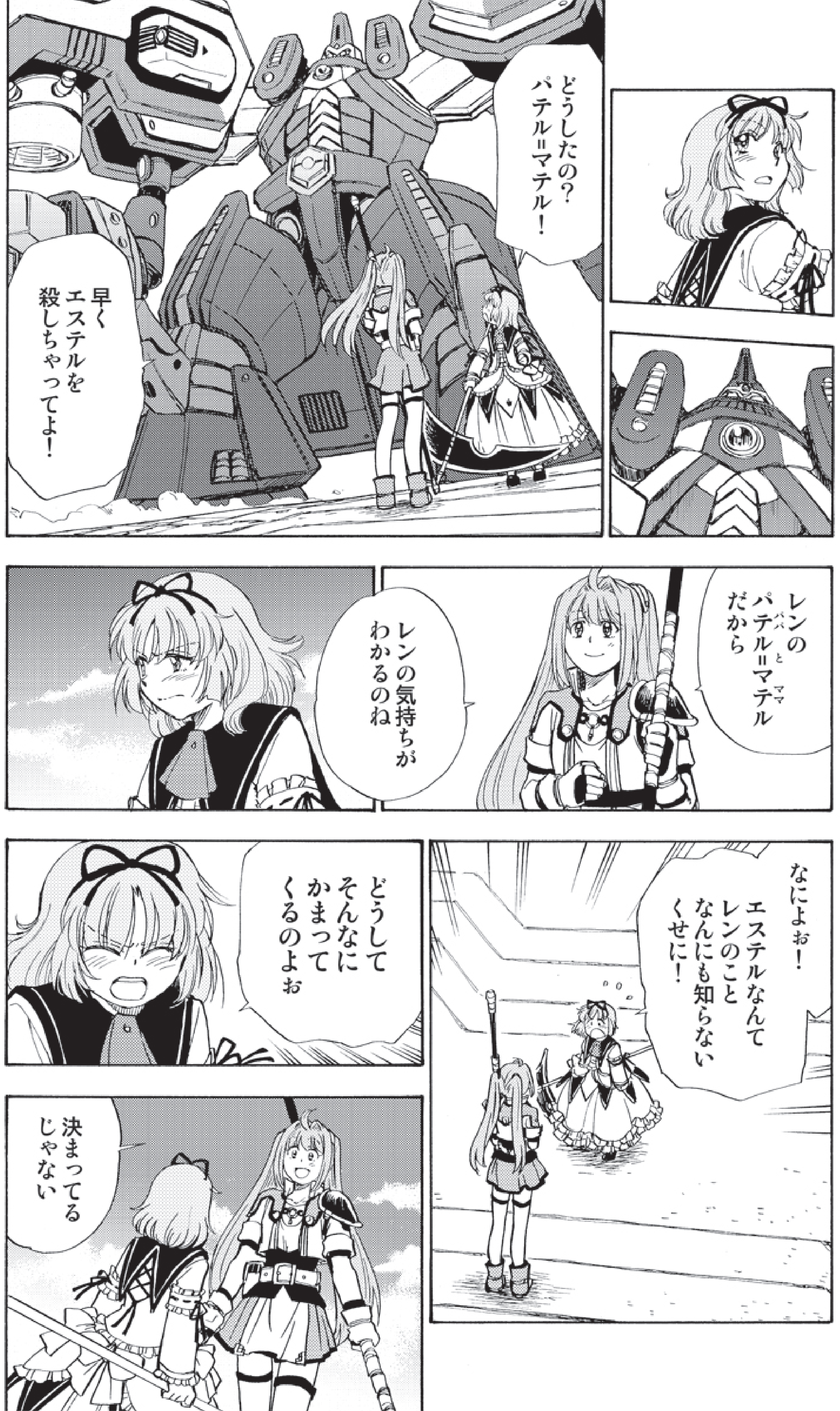

あたしは…レンは 人を平気で 傷つける結社なんかに いてほしくない
…もちろん それは あたしのエゴで
無理強いは できないけど…
でも ちゃんと 考えて
できれば レン自身で 気づいて欲しいの
レンの居場所は 結社だけじゃ ないんだってことに

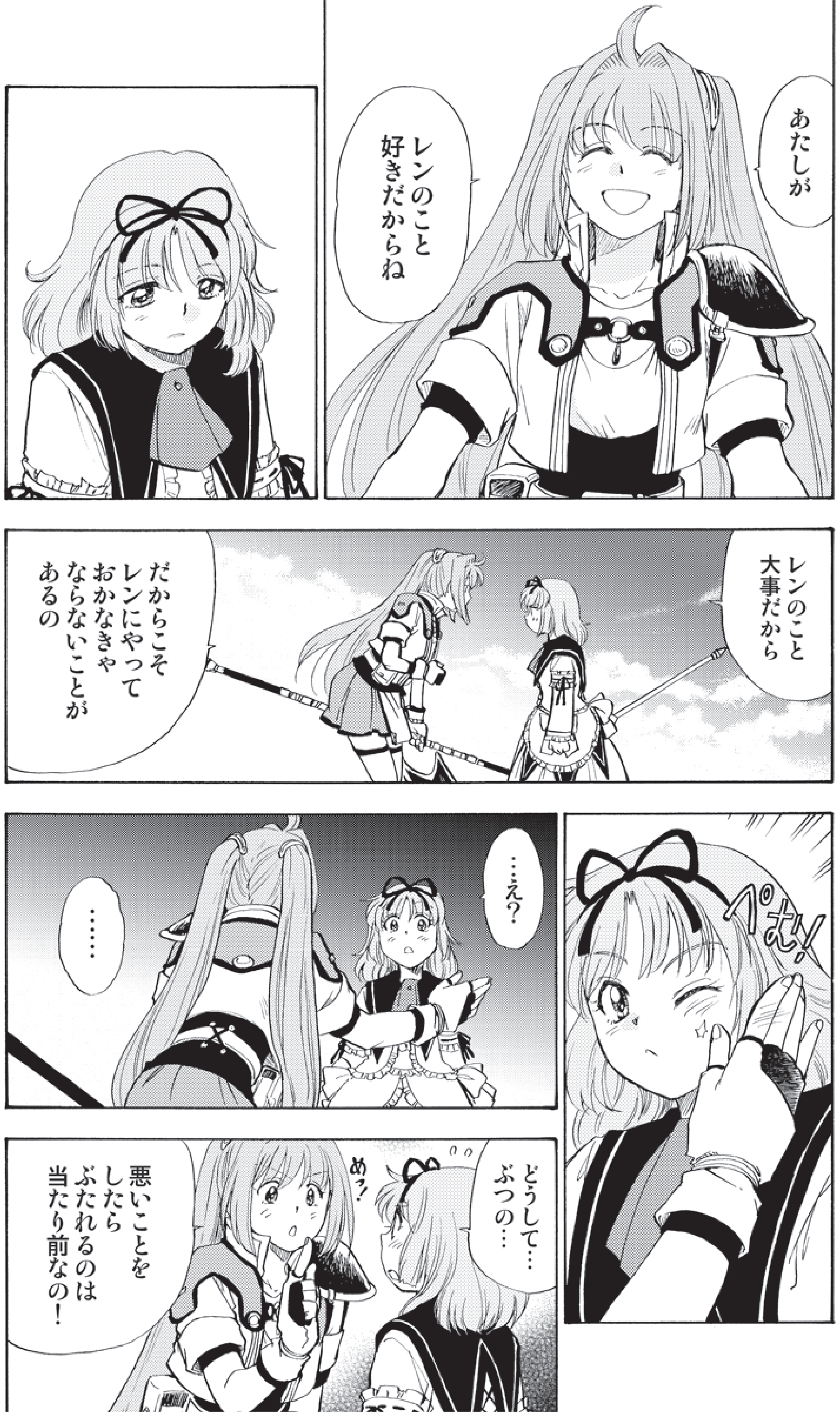

いつでもヨシュアみたいに
後戻りもできるんだよ
…気に入らないわ
本当の本当に
気に入らない！


レンのこと全部間違ってるって言ってるみたい！
レン
もういい！
レンの仲間にならないんだったら
エステルなんか
死ねばいいわ！

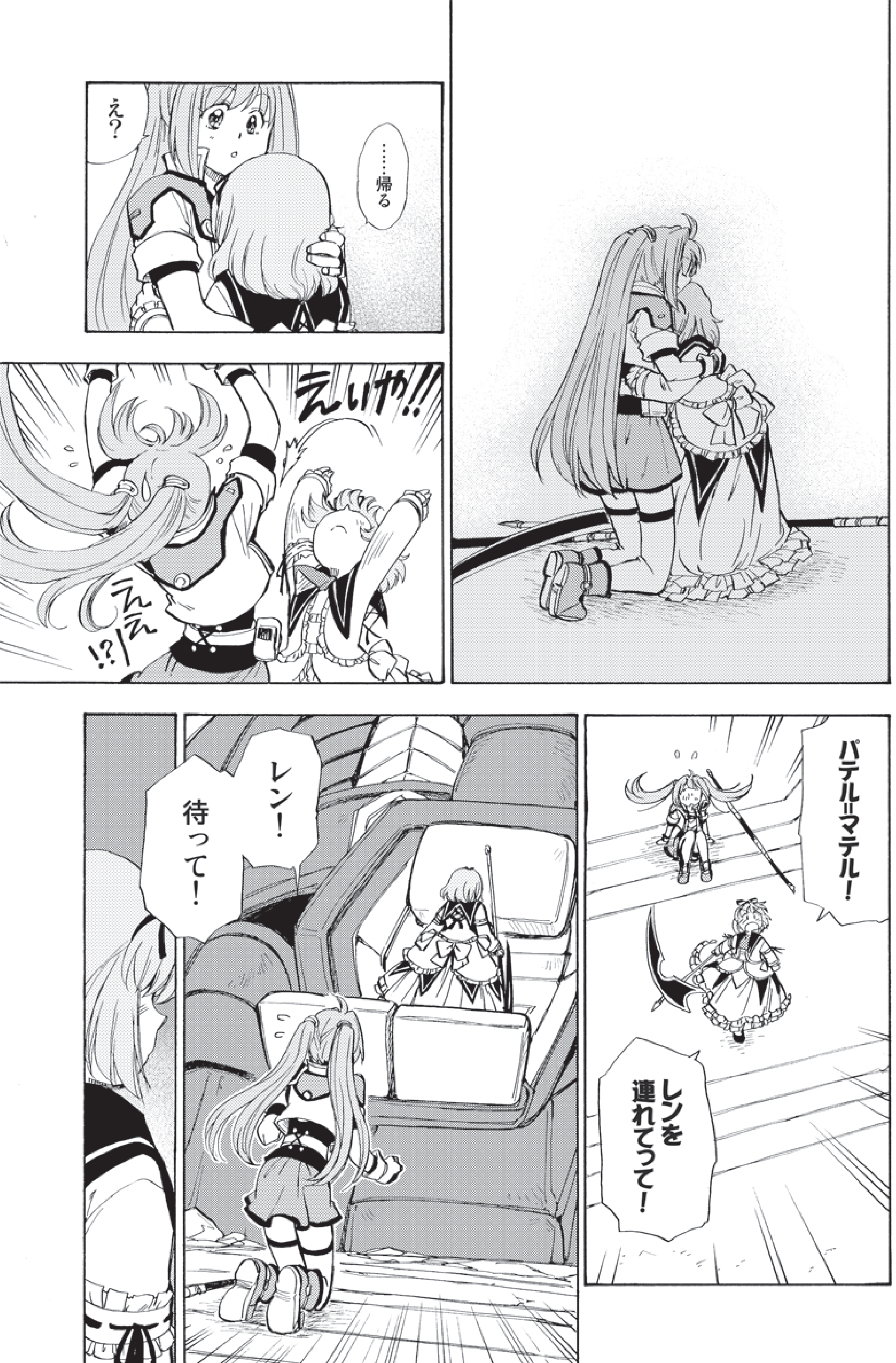

どうして
よけないのよ
それはレンが本当にやりたいことじゃないと思ったから
…来て！
パテル＝マテル！


ドォン
リミッターを解除して！パテル＝マテル！
全力全開でエステルを殲滅するのよ！


どうしたの？
パテル＝マテル！
早く
エステルを
殺しちゃってよ！
レンの
パテル＝マテル
だから
レンの気持ちが
わかるのね
なによぉ！
エステルなんて
レンのこと
なんにも知らない
くせに！
どうして
そんなに
かまって
くるのよぉ
決まってる
じゃない


あたしが
レンのこと
好きだからね
レンのこと
大事だから
だからこそ
レンにやって
おかなきゃ
ならないことが
あるの
…え？
……
ぺむ！
どうして…
ぶつの…
めっ！
悪いことを
したら
ぶたれるのは
当たり前なの！


人を傷つけること
それだけは絶対間違ってて
絶対やっちゃいけないことなのよ
誰のことも…
自分のことも
…ね


……帰る
え？
えいや!!
ええぇ!?
パテル＝マテル！
レンを連れてって！
レン！
待って！

リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する!



リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて!

英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～⑥

啄木鳥しんき

定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル



▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

『ファルコム・アーリー・コレクション For X68000』予約スタート！



X68000用ゲームソフト『ファルコム・アーリー・コレクション For X68000』の予約受付が開始。さらに、2022年発売予定のX68000用新作タイトルとして、『ワンダラーズ フロム イース オリジナル（仮）』と『ザナドゥ/ザナドゥシナリオII（仮）』も発表されました。

なお、今回予約を開始する「ファムコム・アーリー・コレクションForX68000」と新作2本が実機で動作する様子はYouTube "インプレスチャンネル" 内で配信中です。
https://www.youtube.com/watch?v=dluTueAHV1c
また、本製品は、PlayStation®4/Nintendo Switch™用ソフト『コットン リブート!』、X68000用ゲームソフト『イースI&II ~Lost ancient kingdom~』に続いて、埼玉県羽生市「ふるさと納税」の返礼品に選定される予定です。

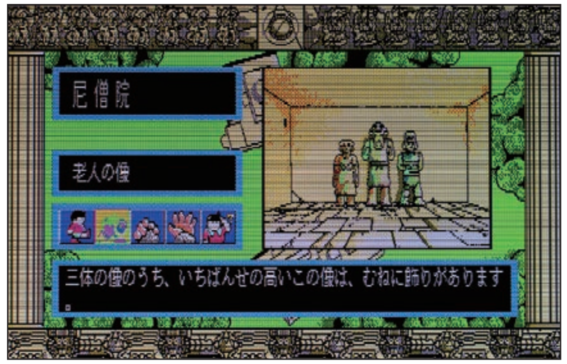




X68ロマンシア



X68ドラゴンスレイヤー



X68太陽の神殿

■**BEEP公式サイト**
https://www.beep-shop.com/extragames/fec/

■**ファルコム・アーリー・コレクション For X68000公式サイト**
https://www.falcom.co.jp/archives/31896

シリーズ最新作『英雄伝説 黎の軌跡』の新作グッズが早くも登場！

キャラクターイラストを使用した各種アイテムに加え、アークライド解決事務所メンバーの描き下ろしGraffArtグッズもラインナップ。









■**店舗発売日**：12月25日（土）
■**発売店舗**：GraffArt Shop 池袋本店、なんば店、名古屋店

2022年の壁掛けカレンダーは『英雄伝説 黎の軌跡』に決まり！



イラストレーター・エナミカツミ氏の通常版ジャケット用メインジビジュアルに加え、描き下ろしイラストやエンディングイラストを使用したB3サイズ（表紙＋12枚）の2022年壁掛けカレンダーが登場！

■**商品名**：黎の軌跡 壁掛けカレンダー2022
■**サイズ**：B3ヨコ（W515xH364mm）
■**内容**：表紙＋12枚（2022年1月はじまり）
■**価格**：¥2,750（税込）
■**発売日**：2021年12月20日
■**商品紹介ページ**：https://www.falcom.co.jp/archives/32106
■**「ファルコムショップ」予約ページ**：https://falcom.shop/products/detail/443

11月の

新／衣装替えキャラクターをチェック！



Xmas・ティータ

ティータのクリスマス衣装はやっぱりキュート系？　……と思いきや、青を貴重とした大人っぽい衣装に。持ち前のキュートさはそのままに、普段とはまた違うティータの魅力が引き出されている。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡 アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
11 月はメインストーリーの終章第 3 弾の後篇が実装！　さらにティータが一足早くあの衣装を披露♪

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/
公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー終章第 3 弾「公宮最後の日 / 後篇」を実装！

《戦争卿》の刺客による妨害を受けながらも公宮の避難支援を終えた試験班。
しかし一息つく間もなく新たな問題が発生する。
次の任務は《戦争卿の拠点》の壊滅――。
試験班はレミフェリアに巣くう“毒蛇”を捉えることが出来るのか……？









※現在は開催終了しています

※画像は開発中のものです。　※ 上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

扉の前にいた見張りをなぎ倒し、エステルたちは女王の間へ飛び込んだ。以前に侍女に変装して通された部屋で、その部屋は女王陛下の私室のはずだった。

しかし――。

「クローディア……。それに、エステルさんも……」

「ようやく来たか。待ちくたびれてしまったぞ」

女王の間には、アリシア女王の他に、もう一人の人物がいた。仮面の男――ロランス少尉が、アリシア女王を拘束していたのだ。女王陛下の両腕を後ろに回し、片腕でまとめて掴んでいる。もう片方の腕には巨大な剣を持っていた。

「ロ、ロランス少尉！　どうしてこんな所に……」

「フフ……。私の任務は女王陛下の身柄の確保だ。ここにいても不思議ではあるまい？」

「ふ、ふざけないでよね！」

「ふざけてなどいないさ。案内役としての用事は終わってしまったからね。私にとってはもうこれ

英雄伝説 空の軌跡3 ～王都繚乱～

第11回

『創の軌跡』の発売を記念して
『軌跡』シリーズの原点を振り返る！



リベール王国を舞台とした『英雄伝説 空の軌跡』、クロスベル自治州を舞台とした『英雄伝説 零の軌跡』と『英雄伝説 碧の軌跡』。そして、エレボニア帝国を舞台とした『英雄伝説 閃の軌跡』。これまでゼムリア大国西部の各国を舞台として物語が紡がれてきた『軌跡』シリーズだが、最新作『英雄伝説 創の軌跡』は、これまでのシリーズに登場したキャラクターや世界観をより掘り下げていく作品ということで、シリーズの原点ともいえる第１作『英雄伝説 空の軌跡 FC』ノベライズを好評連載中！

製品情報
好評発売中
著　　:はせがわみやび
イラスト:ワダアルコ
定　　価:1,400円(税別)

くらいしかやることが残っていない。受けた仕事は最後まで責任をもたないとな」
そう言って、巨大な剣を構えた。
「……いくらあんたが強くても、こっちは三人もいるんだから！」
「こいつ……ずいぶん腕が立ちそうね。いったい何者なの？」
油断なく鞭を構えながらシェラが険しい声で聞いてきた。相手の実力を見誤ることがないのはさすがだ。
「こいつが情報部、特務部隊隊長、ロランス・ベルガー少尉！　もと猟兵上がりで大佐にスカウトされた男よ！」
「猟兵団上がり……そう、こいつが……」
ほう、とロランスは感心した声を出した。
「そこまで調べていたか。さすがはS級遊撃士、カシウス・ブライトの娘だ」
「なっ」
「外部には公表されていない、先生のランクを知ってるなんて……こいつ、タダ者じゃないわね」
「お前のことも知っているぞ。ランクC、《銀閃》のシェラザード・ハーヴェイ。近々、ランクBに昇格予定らしいな」
シェラは黙り込んだ。
代わりにクローゼが口を開く。
「あ、あの……。お祖母さまを返してください。あなたが大佐に雇われただけなのなら、もう戦う

理由などないはずです」
「フフ、この世を動かすのは目に見えているものだけではない。クオーツ盤だけを見ていては歯車の動きが判らぬように……」
「え……」
「心せよ、クローディア姫。国家というのは、巨大で複雑な導力器（オーブメント）と同じだ。人々というクオーツから力を引き出す、あまたの組織・制度という歯車……。それを包む国土というフレーム……。その有様を把握できなければ貴女にも女王としての資格はない」
（な、なんなの、こいつ……）
仮面の男の言葉には、思わず気圧されてしまうほどの確かな信念が感じられた。
「面白い喩えをするものですね。確かにそのとおりかも知れません。まさか、この場で国家論を聞くとは思わなかったけれど……」
アリシア女王が言った。
「フ……これは失礼した。陛下には無用の説法でしたな」
エステルはロランス大尉を睨みつける。
「あ、あたしには難しい話はよく判らないけど……要するに、女王様を解放する気はないってわけ？」
「だとしたら、どうする？」
「決まってるわ。力ずくでも返してもらう！」
相手のペースに呑まれている場合ではない。

（あたしは、あたしの信じることをする！）
　エステルは棍を構えた。
　隣でシェラとクローゼも各々の得物を構える。
「そうね……。ここまで来て後には引けない」
「……あなたからは、敵意は感じられませんけど……。お祖母さまを取り戻すためなら剣を向けさせていただきます！」
　ロランス少尉は口許に不敵な笑みを浮かべてみせた。
　その笑みに何故かちりちりと背筋を嫌な予感が這う。落ち着け、と自分に言い聞かせた。
　武術大会で一度は勝っている相手なのだ。何を臆することがあろう。
「フフ、いいだろう……。ならばこちらも少し本気を出させてもらうぞ」
　アリシア女王を自分の後ろに押しやる。老婦人は突き飛ばされて、そのまま壁にぶつかって崩れ落ちた。
「お祖母様！」
「なんてことすんのよ！」
「フッ……巻き込まれないようにしてやったのだがな」
　少尉が兜を脱ぎ捨てる。隠れていた顔と髪が露わになった。
（銀色の髪……）
　だが、同じ銀髪でもシェラのものとは違う。少し灰色がかった銀だ。

「アッシュブロンドの髪の色……。どうやらこいつ、北方の生まれみたいだわ」
「……北であるのは間違いない。まあ、ここからそれほど遠くはないがな」
　おしゃべりは終わりだとばかりにロランス少尉は剣を構えた。兜によって隠されていた鋭い眼光がエステルたちを射貫く。
「お前たちが女であろうが手加減するつもりはない」
　剣を振り上げた。
　次の瞬間、何が起こったのかエステルには判らなかった。
「あ……う……」
　身体中が悲鳴をあげるほど痛い。エステルの身体は扉のあたりまで吹き飛ばされていた。
「な、なんて剣圧なの……」
「信じられません……」
　シェラ姉もクローゼも同じだ。
　三人ともが踏み込んだ部屋の端にまで飛ばされ、叩きつけられていた。
　無造作に振るった剣の一撃で、だ。
　辛うじて受け身を取れただけでも幸いだった。故郷を出てからの旅でエステルはそれなりに成長したつもりでいた。それなのに……相手の剣の動きがほとんど見えなかった。
　信じられない。
「あ、あんた！　決勝で手を抜いてたわね⁉　あの時とはケタ違いじゃない！」

身体に力が入らない。エステルは顔を上げて睨むだけで精一杯だった。
ロランス少尉は女王のいるほうへと振り向いた。
アリシア女王はすでに立ち上がっている。どうやら怪我はしていないようだ。
「女王よ、あなたに俺を哀れむ資格などない。《ハーメル》の名を知っているあなたには……」
「その瞳……。なんて深い色をしているのかしら……たいそう苦労してきたようですね」
「え……」
「大佐を止めたければ地下に急いだ方がよかろう」
ロランス少尉はそれだけ言い残すと、次の瞬間——、窓を破って飛び降りた。
「な⁉」
驚くエステルだったが、そのとき近づいてくる複数の足音がエステルの耳にも聞こえたのだ。
（まさか、あいつ……加勢が来たのを察して逃げた？）
エステルの予想したとおり、次の瞬間に部屋に飛び込んできたのは——。
「エステル！」
「ヨシュア！」
王城への潜入に成功したヨシュアたちが駆けつけてきたのだ。
窓の向こうはヴァレリア湖に面していた。ロランス少尉が逃げおおせたことは確実だったが、不思議なことに直後に湖を見下ろしたエステルには、飛び降りた湖面にあるはずの波紋を見つけることはできなかった……。

† † †

こうして女王の間に全員が揃った。
駆けつけてきたヨシュアと互いの無事を喜び合う。
ユリアが、情報部によって操られている正規軍部隊が王都を目指していると教えてくれた。支部から入った最新の情報だという。大佐から指揮権を完全に奪い返すまでは安全ではない。とりあえず脱出すべきだろう。
だが、アリシア女王は苦しげに首を横に振った。
「それよりも先に……、なんとしても、リシャール大佐を止めなくてはなりません。昨夜、大佐と話をしてみてようやく真の目的が判りました。どうやら彼は《輝く環（オーリオール）》を手に入れるつもりのようなのです」
《輝く環》。
アリシア女王の言葉にエステルは聞き覚えがあった。ヨシュアが言う。
「空の女神が授けたという《七の至宝（セプト＝テリオン）》の一つ……。すべてを支配する力を持つといわれる伝説の《アーティファクト》のことですね」
「ああ、アルバ教授が言ってた……。でも、教会に伝わってるただのおとぎ話なんでしょう？」
「古き王家の伝承にはこうあります」

エステルの問いには答えず、アリシア女王は目を伏せ、震える唇でそらんじた。
輝く環、いつしか災いとなり人の子の魂を煉獄へと繋がん。
我ら、人として生きるがために昏き闇の狭間にこれを封じん……。

不吉な言葉に満ちた言い伝えだった。
「伝承は、代々の国王への戒めとして伝えられてきました。おそらく《輝く環》と呼ばれる何かはその危険性ゆえ、王家の始祖によって封印されたのだと推測できます。そして、王都の地下から検出された巨大な導力反応……。この二つを結びつけて考えると……」
「王都の地下に《輝く環》が封印されている……」
ヨシュアの言葉に全員が息を呑んだ。
災いをもたらすと伝えられる《輝く環》。その封印を、リシャール大佐は解こうとしている。
何故。何のために……。
そして、そのとき何が起きるのか――。
父親の行方不明から始まったエステルたちの旅は、どうやら想像を遥かに超えた大事件へと続いているようだった。

第十九幕　輝く環(オーリオール)

「このグランセル城には不思議な部屋があるのです。特に何も保管されていないのに昔から立入禁止とされた場所が……」
アリシア女王が言った。
「それって、宝物庫のことでしょうか」
「ええ。ユリア、みなさんを宝物庫に連れて行きます。鍵をもってきて」
「で、でも……」
「国が滅んでしまうかもというこのときに、言い伝えを頑なに守ることに何の意義がありましょう」
「わ、判りました」
女王に案内され、エステルたちは城の宝物庫へと向かった。
ユリアから渡された鍵を鍵穴に差し込もうとした。女王の表情が強張る。
「陛下……?」
無言のまま女王はそのまま取っ手を掴んで扉を引き開けた。
「鍵が……!」
「すでに開いていました。やはり大佐はこの部屋に……」
宝物庫に足を踏み入れたエステルたちは、すぐに部屋の奥にある古代の昇降機に気づいた。
一見すると角の取れた単なる四角い踏み台にしか見えない盤だが、見たこともない材質でできて

いたし、なによりも台そのものが光っていた。そしてその板は床を突き抜けてわずかに沈んでいたのだ。
「この部屋には何も保管されていないという話だったよな……」
ジンが言って、アリシア女王が「ええ」と応える。「もしかしたら、何かに偽装されて隠されていたのかもしれませんが」と続けた。
「それを大佐が見つけたってわけか」
どうやらこの昇降機で地下——封じられた《輝く環（オーリオール）》の元へ降りることができるようだ。
「もしかしたら、これこそが大佐がクーデターを起こした真の目的だったのかもしれません。王城を占拠でもしない限り、こんな物を扱うのは不可能ですから」
アリシア女王の推測を、エステルはすぐには信じられなかった。
ただ、そうまでして大佐が求める《輝く環》に、いっそう恐ろしさを感じたのだ。この機械で王城の地下を探索する。その目的のためだけに国一つをひっくり返そうとしたということになる……。
「行くわ。行って、大佐を止めてきます！」
エステルはそう言って飛び乗ったのだが、あとから乗ってきたヨシュアが端にあった制御盤らしきものに触れてから「ロックされているね」と言った。
「このままだと動かせないみたいだ」
「下に行けないわけ？」
「僕では無理だね」

ヨシュアが難しい顔になる。
オリビエとジンも乗り込んできた。
「なるほど……我々が追ってくることは予想済み、ということだね」
「闇雲に動かそうとすると、壊すかもしれん。どうする？」
ジンが昇降機に乗ったみなを見回しながら言った。
誰も答えられなかった。
「心配ない。わしに任せておけ」
声と同時に扉から声の主が顔を覗かせる。
「ラッセル博士！」
みなの声が重なる。女王陛下さえ驚いていた。
だが、現れたのはラッセル博士だけではなかったのだ。博士の背後からもう二人現れた。
「まーだ、こんなとこでのんびりしてやがんのか！」
「あのあの……おひさしぶりです」
アガットとティータだった。
「ふたりとも、無事だったのね！」
「支部に行ったら、お姉ちゃんたちはお城で戦ってるって聞いたから急いできました！」
「詳しい話は後じゃ。そこにあるのは昇降機じゃな？」
ラッセル博士はあっさりと宝物庫にあった不思議な盤の正体を見抜いてみせた。

「女王陛下……ご無事でなによりです。今は危急の事態ゆえ礼儀は後回しにさせていただきますが……」
「判っております、博士」
「ふむ。地下水路の下を調べたときにこれを見つけておれば、もっと詳しく調べられたかもしれませんなあ。言っても仕方ないことじゃが」
「はい……」
「なに、この手の古代の仕掛けは見た目ほどは複雑ではなくてな……これとこれを、こうじゃ」
ラッセル博士が操作盤をいじると、低い唸るような音とともにカチリと音がして何かの鍵が外れたことが判った。
「よし、ほれ、早く乗るんじゃ。大佐を止めるんじゃろ？」
「モチのロンよ！　って、博士も行く気なの⁉」
「当然じゃろ。この昇降機だけで《輝く環》まで辿りつけるか判らんぞ。乗り換えがあったときにまたロックされていたらどうするつもりじゃ」
「あ……」
（それは考えてなかった……）
「総力戦ってわけね……ここが正念場だわ」
シェラが言った。
「遊撃士のみなさん、お願いします。大佐を止めてください」

女王陛下が頭を下げる。
「はい！」
「必ず……！」
エステルとヨシュアは女王陛下へと約束したのだ。
（リシャール大佐の野望は、あたしたちが食い止めます！）

† † †

ゆっくりと降下する昇降機に乗りながら、エステルたちは迷宮さながらの地下の風景に目を奪われていた。
グランセル城の地下――封印区画。
その呼び名をエステルたちは知ることはなかったが、地下の禍々しい雰囲気は感じることができた。
いったいいつから閉ざされてきたのか。空気の流れは淀んでいて、少し息苦しさを感じるほどだ。下がるほどに少しずつ空気も冷たくなっている気がした。
「……この昇降機も導力を利用しているのよね」
「だと思う」
エステルの問いにヨシュアが頷いた。

ラッセル博士が操作盤を睨みつけながら言う。

「《黒の導力器（オーブメント）》のことじゃな？」

「うん」

あのアーティファクトが作動すると、近くにある導力器は軒並み動かなくなるはずだ。

ということは……。

「ふむ。あの機械を古代遺跡に付きものの防衛機構を黙らせるために使ったのだと思うが……、まだ何か役割があるのかもしれんな」

昇降機に乗っているのはエステルとヨシュアだけではない。操作盤を動かすラッセル博士はもちろんとして、王城への突入部隊だったシェラとクローゼ、ジンとオリビエに加えて、アガットとティータも加わっている。

まさに総力戦だ。

どこまでも降りていくと思われた昇降機だったが、動きが止まった。

「着いたの？」

「みたいだね。注意して」

昇降機が動いたことはすでに察知されているだろう。待ち構えられている可能性は高い。

降りたところは十人ほどが入れる広さの部屋になっていて、正面には大きな扉がある。

近寄るだけで扉が開いた。

「な、なによここ……」

目の前には信じられない光景が広がっていた。

城が――いや街が一つまるまる入ってしまいそうな規模の巨大空洞だ。

見上げれば平らな岩盤が空の代わりに頭上を覆っている。

「あの上に地下水路があるんじゃな」

ラッセル博士が言った。

「ふえぇ」

「よそ見してっと、落ちっぞ」

ふらふらと足場の端に歩いていこうとしたティータをアガットが襟首を掴んで止める。

「囲いもねえ、足場だけとはね」

「落ちたら死んでしまうかもだね……」

見下ろせば奈落まで続くかと思う空洞だが、立体的に足場が交差していて、ところどころに複雑な曲線を描く建築物が建っていた。

足場に等間隔に設置された導力照明が熾火の如く淡く輝いている。

地下にこんな空間があったなんて！

「これが、古代導力文明の遺跡……」

巨大な遺跡の幻想的な光景に目を奪われる。

こんな時でなければ探検心に火がついていたかもしれない。

しかし今は一刻も早くリシャール大佐に追いつかなければならなかった。

しかも――。
「どうやら、あたしたちは招かれざる客みたいね……」
シェラが鞭を構える。
地下空洞の奥のほうから遺跡の番人らしき魔物たちが近づいてくる。
機械の守護兵(ガーディアン)たちだった。

† † †

激しい戦いの末に遺跡の番人たちを退け、昇降機を乗り継ぐこと四回。
エステルたちはようやく最下層らしきところまで辿りついた。
どうやら、間に合ったようだ。
扉を開いた先はひときわ大きな部屋になっていた。
部屋の奥には祭壇のようにも見える巨大な導力装置が鎮座していて、その後ろの壁には王家の紋章が描かれていた。
装置の手前に一人の男が立っている。大きな円盤状の巨大導力装置からはうねうねと太い線(ケーブル)が伸びて、前に立つ男の傍らにある機械――《黒の導力器》へと繋がっていた。
「リシャール大佐！」
エステルの声にリシャール大佐はゆっくりと振り返った。

「やはり来たか。なんとなく君たちが来るのではないかと思ったよ」
「あなたの計画を止めに来たわ！」
「ふふ、それはできんよ。もうあとは《ゴスペル》を駆動させるだけだ。本来の役割を果たすためにね」
大佐は《黒の導力器》を《ゴスペル》と呼んだ。エステルたちは、それが正しい名前なのだろうとごく自然に受け入れていた。後から考えれば不思議なことだったが。
「本来の役割……？」
「《ゴスペル》による導力停止現象は、本来の働きの副産物として起こるものに過ぎない。この導力器の真なる役割は、周囲の導力を吸収し、至宝《輝く環》を起動させることなのだ」
大佐の言葉にその場にいた全員が息を呑む。
「ちょ、ちょっと待ってよ。そもそも《輝く環》って何⁉　至宝なんて手に入れてどうしようっていうのよ⁉」
エステルの言葉に、リシャール大佐が射るような鋭い視線を向けてくる。
「リベール王国を守る。ただそれだけだ」
「え……⁉」
「かつて古代人は天より授かった《七の至宝(セプト＝テリオン)》の力を借りて海と大地と天空を支配したという。その至宝の一つが《輝く環》だ」
「支配……」

シェラが問いかける。

「あなたは至宝は強力な武器だと考えたわけね。そして、周辺諸国に対抗する大いなる力を手に入れようとしている……。それがあなたの目的かしら？」

リシャール大佐が頷いた。

「そうだ。知ってのとおり、このリベールは周辺諸国に国力で劣っている。人口はカルバードの半分程度。兵力に至っては、エレボニアのわずか五分の一にしかすぎない。唯一誇れる技術力の優位もいつまでも保てるわけではない。二度と侵略を受けないためには、我々には決定的な力が必要なのだ」

リシャール大佐の真の目的が明らかになった。

大佐の声にエステルは熱を感じた。その熱さにたじろいでしまう。

「だ、だからといって、そんな古代の代物をアテにしなくてもいいじゃないの！　十年前の戦争だってなんとかなったんでしょう!?」

リシャール大佐は首を横に振った。

「あの侵略を撃退できたのはカシウス・ブライトという稀代の英雄がいたからだ。だが、彼は軍を辞めた。国を守る英雄は去ったのだ。そして、奇跡というものは女神と彼女に愛された英雄にしか起こすことはできない」

大佐の瞳は愁いの色を帯びて、声には哀切が滲んでいた。

「だから私は、情報部を作った。諜報戦で他国に一歩先んじることも重要だったが……。あらゆる

情報網を駆使し、リベールに決定的な力を与えられるものを探したのだよ。この国がふたたび苦境に陥った時に奇跡を起こせるようにね。そうしてようやくこの場所に辿りつくことができたのだ！」

大佐の瞳はますます熱を帯びてきた。もはや狂熱的と言ってもいい。

国を守るため――

その志に嘘はないのだろう。

でも、

「……それって、奇跡なのかな？」

エステルはぽつりと言っていた。

それは思わず口から出てしまったもので、うまく言い表すことよりも、ふと心に浮かんだものが零れてしまった。そんな言葉だった。

リシャール大佐が虚を突かれた顔になる。

「なに……？」

心のなかにあったものがエステルの唇を動かして出てくる。

「あたしたちは遊撃士で……みんなの大切なものを守るというのがお仕事だけど……」

心のなかの温かい想いが溢れ出てくる。

そしてエステルの頭のなかは自分でも驚くほど冷静だった。

「でも、守るといってもただ一方的に守ってるわけじゃなくて。どちらかというと、みんなの守りたいという気持ちを、あたしたちは一緒に支えてあげる、という感じなの」

「それが……どうしたのかね？」
「父さんだって、ひとりで帝国軍をやっつけたわけじゃない。色々な人と助け合いながら必死に国を守ろうとしたんでしょ？　お互いがお互いを支え合ったから結果的に、戦争は終わってくれた」
エステルは顔をあげた。
もう、大佐の熱を帯びた瞳の強さにもおののくことはない。
まっすぐに見返しながら言う。
「大佐だって、そのひとりだったのよね？」
「………」
「今、あたしたちがここにいることだって同じだと思う。大佐が軍を支配したことを知った時はかなり途方に暮れちゃったけど……。それでも、色々な人に支えられながらその場その場をなんとか切り抜けてここまで辿りつくことができたわ。前の戦争のときに奇跡が起きたというのならば、これだって奇跡だと思わない？　あたしたちは決して英雄なんかじゃない、けど」
エステルは自信をもって言える。
「でも……でもね。それは本当は奇跡でもなんでもなくて……。あたしたちみんなが普通に持っている可能性なんじゃないかって思うの。もし、戦争みたいなことが起こっても、みんながお互いに支え合えれば何とか切り抜けられるような気がする。訳の判らない古代の力より、そっちの方が確実だと思う」
お互いの支え合おうとする心があれば。

あたしたちのみんながもっている可能性ってものを信じるならば。
いつだって奇跡は起こる。
起こせるのだ。
この空の下に起こる奇跡って本当はそういうもののことを言うんじゃないだろうか。
傍らにいたヨシュアがため息を吐いた。
「エステル……」
「あんた言うようになったわねぇ」
シェラにそう言われると、エステルはなんだか照れくさかった。

†　†　†

「フフ……強いな、君は」
「大佐、もうやめてください。今ならまだ間に合います」
ヨシュアがそう言って説得しても、リシャール大佐はその手を《黒の導力器》から放さなかった。
「だが皆が皆、エステル君のように強くなれるわけではないのだよ。目の前にある強大な力……。その誘惑に抗うことは難しい。そして私は、この時のために今まで周到に準備を進めてきた。今さら、どうして引き返せようか」
何か言わなきゃいけない。

大佐を止めなければ――。
《輝く環》を起動させたら終わりだ。そんな気がした。エステルには嫌な予感しかない。肌がちりちりと火であぶられているような焦りを感じる。
「大佐……一つ、教えてください」
エステルの代わりに言葉を絞り出したのはヨシュアだった。
「どうして大佐は、この場所を知っていたのですか？」
その問いかけはリシャール大佐にとっても意外だったようだ。
「なに……？」
「女王陛下すら存在を知らなかった禁断の力が眠っている古代遺跡……。ましてや、宝物庫に隠されていた昇降機から真下に辿れば遺跡の最上層にたどり着けるなんて、あなたの情報網を駆使したって知り得るとはとても思えないんです。大佐、あなたはどうやってこの場所を知り得ることができたのですか？」
「それは……」
大佐の顔にわずかに動揺が見られた。今までの自信に満ちた語り口が揺らいだ。
言われてみれば、とエステルも思った。女王であるアリシアさえ、宝物庫に昇降機が隠されていることを知らなかったのだ。なぜ大佐は知っていたんだろう。
もし宝物庫の昇降機の存在をラッセル博士が知っていたら、女王陛下はこの封印区画の存在をもっと早く知ることができただろうに……。博士は地下水路の下に遺跡が眠っていること自体は気づいていたのだから。
ヨシュアは続ける。
「そして、その《黒の導力器》。ツァイスの中央工房をもしのぐ技術力で作られた謎の導力器……。それをいったい、どこで手に入れたんですか？　なぜその導力器の名前が《ゴスペル》だと判ったんですか？」
「……答える義務はないな」
「違う！」
ヨシュアは確信の籠った声で、エステルが、いやその場にいた全員が驚くようなことを言う。
「あなたは、僕の質問に答えることができないんだ！」
「な、なにを……」
「あなたは、この場所に《輝く環》という強大な遺物（アーティファクト）が眠っていると確信していた。そして、その黒い導力器を使えば手に入ると思い込んだんだ。だけど、そう考えるようになったきっかけがどうしても思い出せない。……そうなんでしょう？」
リシャール大佐がはっとした表情になるのをエステルは見た。
ある可能性がエステルの頭をよぎる。
知らない間に飛行船の乗っ取りを指示していた空賊団（カプア一家）の首領のことや、《黒の導力器》を手に入れたクルツのことを思い出していた。
彼らはそのときのことを曖昧にしか覚えていなかったのだ。リシャール大佐も彼らと同じなのか

もしれない。
もしかして……記憶を操作されている？
誰かがリシャール大佐の記憶を操っていたのかもしれない。このクーデターも、唆されたということか。
「それがどうしたというのだ！　強大な力の実在は、この地下遺跡が証明している。機械の守護兵（ガーディアン）一つをとっても現代の技術では製作不可能な素晴らしい武器だ！　ならば私は……。私が選んだ道を征くだけだ！」
リシャール大佐は剣を抜いた。
（やるしかないの!?）
小型の飛行艇のごとき機械が遺跡の奥から二体も飛来して大佐の両脇に並ぶ。
身体が変型して足と腕が現れ、機械の兵士になった。大佐を守るかのように肩につけた砲台をエステルたちへと向けた。
まるで大佐を古代人の後継者と認めたかのようだ。
いや、まさにリシャール大佐が目指しているのはそれなのかもしれない。
そう、《七の至宝》を自らが受け継ぐことが――。
（でもそれが、本当にリシャール大佐が考えたこととは限らないのよね……）
大佐の片手は《黒の導力器》の上に置かれており、絶え間ない駆動音を響かせ続け、震動が床を這って足下からエステルたちの身体を伝い昇ってこようとしていた。

このままでは《輝く環》が起動してしまうのだろう。
「君たちの言葉が真実ならば、私を退けてみるがいい……。それが叶わないのであれば、所詮は、青臭い理想にすぎん」
剣を掲げて大佐は言う。
「とくと見せてやろう！　《剣聖》より受け継ぎし技を！」
「言ってくれるじゃない！」
叫ぶと同時にエステルは床を蹴って走り出した。
（先手必勝！）
エステルの前に守護兵の一体が滑り込んでくる。
「どきなさい、ってーの！」
この手の機械の弱点は――可動している部位の接続部だ。
「いやあああぁ！」
裂帛の気合とともにエステルは自らの持つ鋼の棍の先を砲台を取り付けた守護兵の肩の付け根の部分へと突きこんだ。
バチッ！　と青白い火花が散る。
瞬間、守護兵の動きが鈍くなった。
棍を肩に突き込んだまま支えにして、エステルは床を蹴る。
身体が浮き上がって手前の守護兵を飛び越えた。

空中で素早く棍を引き抜くと、三歩でリシャール大佐へと迫る。
「エステル！」
はっとなった。
脇から、もう一体の守護兵がやってきて、太い腕でエステルを殴りつけようとしてきた。防御が
間に合わない！



FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント! ※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.130プレゼント係
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート①『黎の軌跡』でもっとも印象に残っている曲は？
　アンケート②『イース』シリーズで一番印象に残っている曲は？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：『Ys Ⅸ SUPER ULTIMATE』CDレビュー
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：創の軌跡　THE MISERABLE SINNERS
4：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
5：ファルコムニュース
6：暁の軌跡最新情報
7：英雄伝説 空の軌跡

応募締め切り　12月24日（金）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.130

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/